

明治四十三年四月五日
第三種郵便物認可
毎月一回十回發行

大正四年十一月十日發行

神奈川縣教育會雜誌

第百二十七號



◎ 大典奉祝頌	里村勝次郎	一	◎ 秋の句集より(俳句)	北嶋銀扇	四五	
◎ 御大典を奉祝す	湯原元一	三	◎ 菊	小林 綠	四五	
◎ 青年團に就て	東京音樂學校長	三	◎ 溝口桂巖先生	矢後駒吉	四六	
◎ 講 演			◎ 正直蜜柑	公 堂	四七	
◎ 敎授訓練			◎ 雜 錄			
◎ 小學算術書使用上の注意(承前)	服部富次郎	一四	◎ 爲朝の琉球渡來説に就て	那霸天妃小學校長	石野 瑛	五〇
◎ 小學理科教材の系統(一)	神奈川縣女子師範學校調導 井 勅	二〇	◎ 實業科敎員夏期講習會講義の一節	足柄上郡南足柄小學校	遠 藤 生	五四
◎ 雞肋(高等三年讀本)	其の九	二六	◎ 一日の採集(京大講習中)	滋賀縣膳所中學校敎諭	高橋新太郎	五六
◎ 理化實驗の十指針	第二横濱中學校	二六	◎ 普通植物檢索表	樹木の部(第二回)	松野重太郎	五八
◎ 學校園の施設(其の二)	神奈川縣女子師範學校調導 中村謙三	二八	◎ 議會召集			五九
◎ 兒童訓練の實際	津久井郡牧野小學校	三五	◎ 敎育大會開會期日			五九
◎ 小學校に於ける圖書敎授につきて	神奈川縣中等學校圖書科敎員協議會	四二	◎ 勅題仰出さる			五九
◎ 盛典紀事(漢詩及俳句)	縣 廳	四三	◎ 御眞影御下賜			六〇
◎ 奉賀大典(漢詩)	木町小學校	四四	◎ 中學校長開議			六〇
◎ 大典恭賦(漢詩)	同	四四	◎ 夏期講習會一覽表			六〇
◎ 村社日(漢詩)	同	四四	◎ 神奈川縣農業敎育研究會第四回總會狀況			六二
◎ 奉賀御即位式(漢詩)	足柄下郡	四四	◎ 博物講演會狀況			六四
◎ 奉祝御大典の五字を頭における祝の歌	同	四四	◎ 帝國敎育會の冬期講習會			六五
◎ 和歌七首	相 州	四五	◎ 京都便り			六六
◎ 十月小吟(俳句)	同	四五	◎ 檢定試驗問題			六七
			◎ 辭 令			六七

大典奉祝頌

大正乙卯。第十一月。振古盛典。瀨氣盈勃。上奉神器。
 西幸京都。鹵簿肅々。四海驩虞。賢所大前。則樸則古。
 春興殿裡。親告天祖。紫宸殿儀。維嚴維醇。登高御座。
 宣誥萬民。普天率土。葵心慶賀。萬歲三唱。億兆同和。
 宮曰大嘗。悠紀主基。入夜初行。供饌之儀。徹霄闕然。
 六合收響。穆兮祭祀。神靈格饗。國體加尊。皇運逾昌。
 天長地久。聖壽無疆。波間光華。朝曦煜々。雲際秀麗。
 富嶽矗々。微臣亦誓。惕若勞勤。頌詩一章。謹做獻芹。

一 天地のむた窮なき

天津日嗣の御位に

我大君ののぼります

今日の御典の尊さよ

大御

二 垂穂の稲の大御饌に

白酒黒酒を取そへて

皇御神にささげます

大御祭のかしこさよ

奉祝

三 大き正しき君が代の

大御祝に外國の

歌唱

大御祝に外國の

共にことほぐめてたさよ

御大典を奉祝す

里村勝次郎

恭しく惟みるに 今上陛下は京都に行幸遊ばされて本月本日御即位の大禮を挙げさせられ本月十四日には同所に於て大嘗祭の盛儀を行はせ給ふ聖代に生れて此の御大典に遭遇する帝國臣民たるもの誰か滿腔の至誠を以て奉祝の敬意を捧げざるものあるべき然り而して我が神奈川縣教育會雜誌は從來毎月十日を以て發刊の定日となし、ことの此の佳辰と一致せるは偶然とはいへ洵に不思議なる縁にして本誌無上の光榮とするところなり將來發刊期日を變更せず永久に此の佳辰を記念せんことは蓋し獨り予の希望のみにあらざるべしと信ず。今や歐洲は振古未曾有の大戦乱となり平和の巷は修羅場と變して何れも皆塗炭の苦に陥り片時も心を安んずる暇だになきに我が邦に於ては今猶交戦情態にありながら極めて泰平無事の裡に此の曠古の大典を拜することを得るは是偏に 今上陛下の御稜威と陸海軍人の忠誠との賜による帝國臣民の至幸至福何か之に如かん。

抑彼の國に於ける戴冠式なるものは宗教的意義を有するものなれども我が國の即位式は全く之と趣を異にして崇祖の精神に基けるものなれば吾等の奉祝する眞意を味ふことは彼等の決して爲し得ざるところなるべし況んや報本反始の御孝心を實現し給ふところの大嘗祭の意味に於ておや而して 今上陛下は天祖天照大神より連綿として續ける正統の皇胤を受けさせられ又其の神靈を繼承し給ふ加ふるに親しく明治大帝の偉業を紹述恢弘させ給ふされば大正の御代は愈隆んに向ひ天壤無窮の神勅は國民に益徹底せんことは吾人の信じて疑はざるところなり想うて茲に到れば我が國體の世界無比にして古今獨歩なることを今更の如くに感ぜざるを得す是我が帝國の誇にして誰か壯絶快絶を叫ばざらん然りといへども國家の隆替が教育の弛張と消長する

は歴史の證明するところにして更に説明を要せず職に教育にあるの士は自己の職責の重且大なるを自覺し教育勅語を錦の御旗と押し立て、奮闘し以て寶祚の無窮と國家の發展とを期するの覺悟をなし教育者たるの本分を完うせざるべからざるなり吾人は茲に齋戒沐浴して六千萬の同胞とともに謹んで 天皇陛下の萬歳を三唱し衷心より御大典を祝し奉る。



神奈川縣教育會雜誌

第二百二十七號

大正四年十一月十日
發行



●青年團に就て

東京音樂學校長 湯原元一先生講演

私は鎌倉に五六年この方、大概毎年多い時では冬も合せて二回位づゝ参り、色々御世話にあづかつて居る此度は又郡長からのお求めもあつたので、喜んで参りました。切青年團に就ての御話を申し上げる前に一言申して置きたい事は、何事も根本的に研究すること、研究した事柄は根氣よく十分實際に應用して行ふことこれでありませう。斯うなつて來なければ、何事も健全に發達するものではない。日本人は、何事にもよく氣が付き易く直ぐ實行するが、どうも研究が不十分なので、何等確たる基礎がない。それ故やつては見るが人が何とも言はなかつたり、賞讃する者も無いと直に倦きて來る。かゝる次第で、これこそ我國民性の一大欠点であります。其の反對の國民性を有する者は、獨逸である。獨逸人が如何にも強いと言ふ事は今日世界の人々の認むる所でありませうが、原因は全く邦人と正反對の性質を持つて居るからであると信じます。猶獨逸の強い理由は次の事實に依つても知る事が出来る。開戦後此の二月迄の調査に依ると、小學教師で戦

線に出入し、戦死せる者千五百人、其他各學校教師の戦死者も頗る多いさうである。師範學校の如きは殆ど休校の状態で、本科は全部戦線に立ち、豫備科と雖も八分通り義勇兵として出征する有様で、やがては教師の戦死者も三四千に及ぶであらう。外國の新聞は毎日の様に戦死者の名前を記載して居ります。五十年前の奥と『プロシヤ』との戦の如きは、教師の戦死者に一名であつたさうである。獨逸の師範では、一年志願の豫備士官を出す目的を以て、師範教育の傍やつて居る。第一第二國民軍迄出征して居る今日、小學校の教員は眞先に陣出して居るさうであります。私の學校に四人の獨逸人が居る、其の人々の話に依ると、大抵の家で三四人の戦死者を出して居ると言ふ事である。然るになほ祖國が必ず勝つ、其れは英國などは『クロンボ』を使つて居るが獨逸では皆自國の兵に依つて戦つて居るからであると言つて居る。併しながら獨逸は大に弱つて居りませう。弱つては居ませうが、新聞を見ると誠に冷靜なもので、電報なども、公正に取り扱つて居る。でありますから右の報道は、事實と大差が無いてあります。

かの『バルカン』事件の如きは非常なる宿題であつたのであるが、日本では突如として起つた問題の様に考へて居る、獨逸は英國を経て來る電報程弱つては居まい。今にも張り詰めた竹が弛むであらうとか、飯が食へなく爲るであらうとか言ふ様な事は無さうである。

要するに獨逸では、食物の輸入し無くとも節約して用ふれば決して困難せぬと言ふ結論に達して居るのである。今其れを明にざる爲め、獨逸人の頭に如何なる思想が刻まれて居るか了解に便する爲め一言申し上げます。戦争が始れば、獨逸は愈封鎖されてしまふ、外國からは一切の輸入が無くなる譯である、其の場合内國品で間に合ふかどうか問題で、食糧品の研究が必要であると認めらるゝ様になつた。其の動機は數年前の事でのかの『モロッコ』問題の起つた頃からである。

獨逸は『モロッコ』事件に依つて、再び『モロッコ』事件の如き者が起るに違ひないと信じた。其の後の意氣は實に偉いもので、一層食糧品の研究に力を注ぎ海軍の擴張は勿論、陸軍も大に擴張せられ、常に戦時に於ける場合を慮つて居た。又一面には自國の産業保護の上について、總理大臣は戦時に於て糧食に苦しまぬ

様にとて、關稅政策は變へる事は出來ないと言ふ意味の大演説をせられた事があると云ふ事である。斯くの如き次第で食糧品の研究は、一部専門家に依つて行はれて居る。決して大ざつばな研究では無い、全く獨逸流義である。人間の營養物はどれ位入用であるかを研究し、更にこれを科學的に研究して、遂に蛋白質と脂肪との單位に歸した。かく科學的に分析してもまだ満足しない、何故にそれが人間の爲めになるかと、追求に追求を重ねまして、蛋白質と脂肪とが合する時熱を生ずるので、人間はこの熱に依つて生存し得るとなし。然らば、七千萬人の獨逸國民の生活に、幾カロリの熱量を要するかと言ふ様に研究をなし、扱て國內に幾何の穀類があるかを研究して見ると言ふ具合で、調査研究の結果、其の合計より多量の熱量を出して居ることを知つた。其の標準に依ると内地出來のみにて、熱量の約倍を産して居ると言ふ事でありませう。それ故今迄外國から輸入して居つたのは不足の爲でなかつた、使用方法其の宜しきを得て居なかつた爲であると悟つた。料理法の如き『ヘット』の皿について伯林の川の下水に、多量に油が流されて居ることに注意して、研究の結果、一人一瓦の割合に捨てられてある事を知つたこれが抑も、使用法の宜しきを得なかつた事を悟らしむる動機であつたのです。是れは研究の態度の一例であるが、斯くの如くして、使用法如何を講究し、獨逸産で十分であると言ふ根本的からの解決がせられて居た。曾て普佛戦争の時『ヘルリン』の『マキケット』を見物に行つて、佛國が普の包圍中よく永さを保ち得たのは『マキケット』の食物の貯藏に適當なりし爲なりとし、吾人もかゝる目に逢ふ事を覺悟せねばならぬとて、地下に永く保存して居た爲め、今回戦争が始まつても當時新聞紙の報せし如く食糧品に不足を告げて居らぬ、糧食攻に逢ふなどの記事もあつたが、獨逸の事をよく知つて居る私は信じなかつた。果して兵糧には困つて居ないらしい。斯くの如く辛抱強い國民で、我國民の如く食物が何程いるか凡一石位いるなどと言ふ漠然たる考へては承知しませぬ、一人に何程の熱量を要するから何百萬人では何程の食物があると言ふので、始めて承知すると言ふ次第であります。戦争が始まると直に今の様な研究から、全國に食糧品に困らぬ安心しろと告げた國民も皆まぜい物を食へば困る事は無いと自ら信じたと言ふ事でありませう。以上は即ち、獨逸人と我國人とは、正反對の性質を持つて居ることの

一例として、申し上げたに過ぎません。

扱て青年團に就て、申し上げたに過ぎませんが、青年團は日本にもありませんが、先年青年團のことに就きまして歐米に出張を命ぜられ、充分觀察して参りましたが、矢張り獨逸が一番宜しい様である、英國の如きは、はなやかなところがあつて如何にも見えはよいのであります、故に賞讃もされ評判もよいのであります。而しこれがどれだけの効果があるか疑問である、徹底的に組織されて普及して居ないからである、唯一部のものだけである。然るに英國ではどれだけの價值があるかと思つて居るであらうか。そこに行くに獨逸人のやり方は根本に問題を置いてゐる、十分研究の結果、善と認むれば上下一致し、國家全体の仕事としてやるのであります。斯かる次第で、やれば必ず國民の事業としてやるのである、故に善いと解つた事柄は、徹底的に普及して居る。それまでには無論よく研究を積まれるのであります。獨逸人は實行するに一人々々でなく必ず協同一致してやる、獨逸では組織的と言つて居ます、日本人は直ぐ實行するが徹底的でない、伊太利人や佛人等は、機敏で一番先に研究をするが矢張り徹底的でない、研究の後をとつて根本的に研究するのは獨逸であります。無線電信は機敏な伊太利人に依つて發明された、それをとつて研究し、應用の上は好結果を來したのは獨逸であります。自動車も伊太利人の思ひつきで、獨逸に入り、研究せられてよく應用さるゝと言ふ始末で、常に應用の点に於て他國に抽んで居る。斯くの如き次第で、實際に仕事の上に用ひんとするときは、必ず組織的にやる、各種の團體の力を以て決行して行く、彼等は團體として行動する腦力を以て居るのであります。組織的とは盲從的のものではない、奴隸が最も從順で決して命令にそむかないが、それは組織的とは言はれないのであります。團體の爲め自己の自由は犠牲となるが、自分々々の任意の意志に出で、共に一致して働くところに組織的があるのである。然し獨逸人位個人としていやな奴は無、實に個人主義の私の強い奴であります。個人主義の私の強い奴でありながら、公共の利害關係になると任意服従に依つて直ぐ一致してしまふ、一人々々として私の強い奴が、公共の利害關係になると直ぐ一致するから面白い、かく兩極端の一致は珍らしいことでもあります。私の強い國民でありながら今日の如き戦争になると、全部服従して國

家の爲めに戦つて居る、餘程面白い國民である、之れが獨逸國民性の秘訣であります、かくの如き次第でありますから、獨逸にては、團體を形づくつても、一個人の如く行くのであります。獨逸人は喧嘩好きと見え、毎日喧嘩をする、併し乍ら、利害關係が一致する時は直に一致する、平常我が強いけれども一致すべき時には一致するのであります。教員、下級官吏等の組合は鞏固で其の力をもつて、偉大な事業をすることが出来る、であるから總て事を解決するものは、團體の力であると言つて居る。獨逸の理髮組合は本部が設けられてあつて、全國の散髮事業を協同の力に依つて發達させて行くのであります、加人せざる者は手も出せないのてある。

獨逸流に依ると、人口から、日に何人の客があつて、男何人内小供が何人、一日にどれ位位髪がのびると言ふ風に計算し、其れに對して理髮師が何人必要であると言ふ細密な調に依りまして人數を決定してしまふのであります故に鞏固なる仕事となるのである。飛び入り者は是に加入しなければ營業が出來ぬ譯では無い、併し駄目である、理髮組合が協同して賃錢を安くするのですくつぶされてしまふ。この点から大利なくとも損無く、永く職業を維持して行くことが出来るのであります。日本は如何であらう、無暗に競争を事として居るのである。

獨逸國は右様の次第で組合は昔からよく發達して居る。この性質は到る所に現れて居る、一事が萬事これ獨逸式であります。青年團も組織的になつて居るので、イザやるとなると頗る有力である、即ち事業をするに決して金の問題は顧みない、金の有無にかゝはらず必要と認めた以上は必ず實行するからである。金はつくれば出来るの主義である、金は事業に必要であるから働くと言ふ調子で、日本の如く必要であるが經濟が許さない、許さぬから實行しないと云ふ様なことは無いのであります。彼等は如何なる必要があるか根本的に研究してよいと認めた以上必ず決行するのである。

外國の義務年限は八年で、六才から十四才迄であるが都會生活には不足である、農村生活はどうか間に合ふのであるが、都會生活には不足であるから、實業補習學校の必要が生じ、一週二三日ではあるが、必要學科

を修めて居る。今では都會と言ふ都會は之を義務と心得て居る。獨り都會だけではない、獨逸には近年農村にても義務と心得て居る。義務年限と言ふと日本では劃一にしてしまふ、獨逸では郷土本位であるから劃一にはしてゐない、知事は其州々々に對して此所は義務教育はもうよいから、補習教育を義務となすも可なりと言ふ、意味の法令を出す、そうして、知事が必要と認めたる時は、補習教育を義務として課することを許すのであります。『プロシヤ』にては斯の如く補習教育を農村の義務とすることを得としてあるが、或一部では町村からの申告により知事の許可を経て實行して居るさうであります。兎に角殆んど全く義務教育として補習教育を行ふ併し此補習の義務年限終了後、徴兵に行く迄には空隙がある、この間は教育者の監督を離れる譯である、この空隙のある所に魔がさして人生に崩れを生ずるのであります。不良少年問題もこゝから起るのである、然るに教育の義務をこゝまで課することは困難であります、且つ社會反面の犯罪の總ての原因はこの間に生ずるのであつて、青年團の起りし原因もこゝにある、これを矯正する爲め補習教育の補習教育ともいふべき青年團の必要が起つたのである、即ち教育を今少しく延長して行くことになるのであります我國の從來の青年會は只、道標を立てなどして、勞働機關に過ぎなかつたが、今度は青年團を組織して、修養機關となすに到つたのであります。

それからいよいよは國際上の關係から、英國の少年義勇團、其の起りは一寸面白いもので何でも小兒が兵隊事する事から始まつたといはれて居る。それが大陸に入り獨逸に輸入せらるゝ事になり、獨逸ではこれをバードフィンダーと言つて、小さい道を發明する意味であるさうですが、全く其の由來は英國から輸入されたものであります、そして一時は、大變このバードフィンダーが盛んになつたが、兎に角、英國のものを其儘受け繼いだのだからどうも面白くない所が多い。一つには、これが義勇團を起した故に、英國では入營の必要がない、且つ英國では殖民地に多くの人民が行くから自然殖民地の生活狀態等其れに必要な事を教へるけれども獨逸には、其の必要がない故に、英國からの其の儘の輸入が色々の議論の種子になつた。一体獨逸といふ國には、このバードフィンダーの輸入されぬ以前には、遠足が非常に流行して居つた。如何なる原因か

能くは解らぬが私の觀察では、都會生活の結果である様に思へる、總て都會生活が盛んになりますと、人情の常として何うしても自然の懷の中に入りたくなくなるのが當然であります、日常都會の紅塵萬丈の巷にあつては常に郊外に出て自然の爽快な空氣に接する事を欲する、特に獨逸の様な重箱の中に居る様な所では、一層この必要を感じて、遠足が流行した様に思はれる、この遠足が日本の遠足とは大變其の様子が違つて居るので、獨逸では、この事を『ワンダーホーレー』といつて居る、即ち、これを渡り鳥といつて居る、極く始めに行はれたのは、少數の者が話し合つて、吾々の書生時代にやつた様な共樂主義の者であつたらしいが、これが、精神上にも身体上にも非常に必要だといふので、益々盛になつて、山に登り、至る所の松原に旅行して各自の心身を鍛練する様になつた。そして近來では、極めて質素に、併し自炊によつてこの旅行をする様になつた。即ち食料品を備へ、『アルミニウム』の鍋を携へ、決して汽車の便を借らないで成る可く人通の少ない小道を見出しては、徒歩で旅行する、そして、食事時分になると自分で鍋を下ろして、用意して未だ食料品を煮焚して、食事を済ますのである、これが彼等には大變珍らしく又無上の樂なのであります。そして彼等の旅装は何時も手には、金剛杖の様な六尺棒を離す事がなく、脊には『ズツク』で丁度饅頭の様な形に出来て居る背囊を脊負つて行く、この背囊は、仲々都合よく出来て居て、この邊で旅行に使ふ雜囊等とは全く較べものにならない、この事を彼等は『ズクザツク』と言つて居る、矢張りこの中に色々の旅行用具等を入れてあるのである、そして、服装等は極めて質素なもので必ず『ゲートル』を着けて大變身輕な旅装であります。前に立戻つて、旅行の出發の際には、色々の樂器等も持つて行くので、長い徒歩に疲勞を覚えて來ると山の頂でも森の中でも面白い遊戯を始めるのである。踊をやつたり、『バイオリン』を弾いたり、『マンドリン』をやつたりする、又或者は渡鳥の歌を歌つたり、或る者は、つまらない歌等を歌ひ出す者もあり、中には國法で禁じてある歌を嘯鳴り出す者もある。いつでも勞れた時にはさつとこんな遊戯をして、この一日を全く天然に親しんで、あらゆる苦悶煩鎖な事柄を打忘れて愉快に過すのである、中にはこれによつて、極端な自由主義になるものもあるが、多くはこれによりて心身を修練して來るべき活動の準備にするのであります

す。併し只こんな自然的行樂丈では何んだか物足りない感じがするので、遂にこれを全校生徒が擧つて出掛けて行く様になつたのである。昔から行はれて居る我日本の遠足の様な不自由なものでなく、前の人の立てた塵を吸ふべく行くが如き害はなくて、誠に自由で且つ心身の爲めになつたのである。而しこれでは尙ほ缺點があるといふのでこの遠足を利用してつと有効にすることが問題になつて、この際に軍事的豫備教育をなす様になつたのであります。田中少將等は、この時機に、軍事的の豫備の教育を爲す事を全然いけなさに言つて居らるゝが、私にはどうしても害等は認められぬ、反つて必要な事であると思つて居る、勿論、日本の子供がよく『サーベル』を振り廻はしてやる所謂兵隊事は避けなければならぬ、獨逸でもあれば排斥して居る如く、日本でも反對であります。而し軍事教育の基礎となる様な距離の目測とか風力の速度とか水流の緩急を測るとかは當然この時期に行ふべき事である、この學校の(鎌倉小學校)便所の手洗の桶に、其中に入る水の量が記してあるがあれば最もよい事である。現今日本では、こんな目測で大体を認めるといふ事を大變に怠つて居る。この事についてこんな話がある、今上陛下が皇太子であらせられた頃或る立派な校長に向つてあの山の高さは大体どの位あるかと尋ねられたすると其の校長は解らないので出鱈目の事を言つて御答申すと、殿下は『馬鹿言へ』といはれて笑はれたといふ事を傳へ聞いて居ります、こんな理で私はどうしてもこの時期に、軍事教育の豫備としてこの位の事は、知らしめて置かねばならぬ必要があると思ふのであります。日本で田舎から急に都會に出たよりも西洋で田舎から都會に出た方が遙かに都合がよい。何故ならば、彼地では文字さへ讀めれば決して都會に出ても心配する事がないのである。獨逸あたりでは、市區が整然として街路がよく整つて居つて、家々も何番地々々ちやんと解つて居るから、決して、路に迷ふとか、家が解らぬとかいふ事はない。夜は各町に電燈が点せられるからどんなに暗い闇の夜でも平氣で歩く事が出来るのであります。大速力の地下鐵道に乗つてさへも、其の途中の停車場等もはつきり解る様になつて居るから、乗り過ぎたり等する心配は全然無用である。所が英國あたりでは、色々の看板が多いので何か何やら始めては全く解らない、米國等でも口でこそ、何々驛といふ事をいふが、矢つ張り餘程注意して居ら

ぬと誤る事が仲々多いのである。この邊は獨逸は大變便利で、他人によらないで、自分一人で如何なる時如何なる場合にも自由に解る様になつて居る、其の方角を見るにしても自由に出来る様になつて居る、一人ぼつちになつても自から其の方向を見つける事の習練は甚だ肝要の事であつて、彼の國では小學校の生徒にも山や木などの目標によつて、子供に、若しこつちの方に來たならばあの木はどう、あの山はどうとちやんと教へ込んであります。であるからどこに出ても子供の迷ふと言ふ事はありません、東京あたりでも多少は教へられて居るが決して盛んではない。日本に於ては、田舎と都會とが外國の様でないから左程までに念を込めてやる必要もあるまいが、常に其の方位位は普通教育上知らせて置く事が肝要であると思ひます。この意味に於て軍事教育の豫備の教育を授ける事は、決して差支はない、寧ろ甚だ肝要の事といはなければならぬさて今日の最近の獨逸の青年教育は、所謂補習教育の補習教育でありまして、之に英國の少年義勇團の教育の精神を取り入れ、以前からの渡鳥の主義をもくみ、以上の三つを取り入れて、自國に最も適する様に作り上げて少年教養といふ名を付けて盛ならしめて居る、これが獨逸の青年團である。故に其の教育は、三方面からの要素を取り入れて、愛國心その他國民的道德上の教訓を教授する事はいふまでもない事でありまして、先頃文部内務兩大臣から訓令がありました、其の訓令は明らかに知らしてないが矢つ張りこの三つを含蓄して居る者であつた。次に其教育の内容である。この教育の内容は、小學校の教育の内容とは少し違はなければならぬ、何となればこの際に於ては、彼等は一面實際生活で觸れて居る故に其の立場を利用して、教育せねばならぬ、何時でも實際生活と結びつける即ち、勤勞主義の教育が、この教育の特色である。即ち始めは、雇主と生徒との關係よりそれから一本立の人として教育せねばならぬ。之が即ち公民教育であります。抑公民といふと、老若男女皆んなこれに入るのでなくて所謂公民権を有して居る者である、そして政治に参加し得るものか公民である、この公民教育といふものが其の位の位置を標準として教育しなければならぬ。獨逸の公民権は年齒に制限があつて女とか小兒を除く他は全部であるが日本では、税で制限してあるから極く少數である。獨逸では公民を非常に廣い意味に使つてあるのでこの教育にては、國体は勿論選舉權の

何たるかを知らせ且づ郡、縣、市、國といふもの、政治にたずさはるもの、事業の性質を知らせるのが主張である。小學校時代ではあまりこれ等の事柄を徹底せしむる事はむづかしいが、實際生活に觸れて居るこの時期になれば、甚だ解りよくなるのである。即ちこの時に於て、市町村制や公民の權利義務、それから憲法の大意等を知らずする事が最も有効となつて来る。併し乍ら如何にして最良の公民教育をなすかは、大なる問題である。今日までは、我國の青年教育は事業の爲の青年教育である、今度は青年自からの修養の爲になつて来た、何うしても只仕事をさせる丈ではいけない。先づ修養しつつ生活するといふ事にならねばならぬ。教育の手段として仕事をさせなければならぬ、公民教育を受けさせて後にこれを實行させるのである、そしてこの任に當るものは、公民教育と勤勞教育とは如何なるものであるかをしつかり頭に置いて教育しなければならぬのであります。先きに溯りまして、私は少年には軍隊教育の基礎を授けねばならぬ、何れにしても後には必ず兵營に入るべきものなれば何うしてもこの際に兵營の基礎教育は必要である。殊にまた師團の増設などあれば、多くの青年は殆んど入營しなければならぬのである、この際に於ては、何うしても一度は兵役に服せねばならない。そして義勇奉公の愛國的尙武の教育は軍隊でなければ到底出来ない、義勇奉公の念は口では教育する事は出来ない、兵營内に於て一舉一動凡て死ぬ覺悟でやつて居る、其處にこの立派な精神教育をなす事が出来る、普通の學校では体育はやるが、身体の發育を目的としてやるので兵營の如く死を捧げてやるといふ事はない。であるからこの義勇奉公の精神教育は軍隊教育を除いて他に求むる事は出来ない、この点に於て私は全國民が全部入營するといふ事をさせなければならぬと思つて居ります。今日も汽車の中で一年志願兵に出遇つて色々話しましたが、先年の事でした、近所に一人息子が一年志願に出るといふので大變恐れて居つたが、私は極力其の一人息子に兵士に出る事をときすゝめてやつた、そして入營して一年間兵營生活をして歸つて來ましたが、入營前に比して、體質上からも精神上からも以前と全く見違へる程立派になつたと言つて喜んで、今年の方々に兵士になることを説きすゝめて居るといつて居りましたが、國民として完全なる心身を備へるには何うしても一度軍隊の教育を受けねばならぬと思ひます。

茲に於て青年團が在郷軍人團と如何なる關係があるかを研究すべきである。そしてこの在郷軍人團に對しても注文があつて、常にこの青年團の指導者の價值を有して居らなければならぬ。田中少將も度々この教育の事に就て話されましたが、兎に角其の精神は、勤勞教育と、公民教育と、愛國的教育との三つを根本として教育して行かねばならぬ、半分世の中に出て、實際生活に觸れて居るものなる故に、こゝが又青年團の特別によい所である、そして若しこの青年團の教育が宜しきを得ば、國家の利益の如何ばかり多いかは、豫めはかり知る事が出来ません。然るにかゝる時に當つて、六年の義務教育も尙短かきを感じずるに、四年に義務教育を短縮せよ等、自から教育にたづさはる教育者の口からこの言葉を聞くに至つては、如何に時勢に暗い無主義の教育者の居るかを思うて憐憫の情に堪へない。日露戦争に於ける日本の勝利は、小さい國民兵の未々まで、この教育が行き渡つて居たから勝つたのであると『ミカエロ』は結論した。吾人は今般の訓令の精神を有効にすることに務め、實行せねばならない。如何にすべきの細目に到つては、随分多くの問題解決難があらうと思はれる、これは後日に譲り、今日はこれで御免蒙ります。(拍手)

(右は鎌倉郡教育會總集會に於て湯原先生が講話せられたるものなるを鎌倉小學校職員が筆記せられて特に本誌に寄せられたるものなり、匆卒の際先生の査閱を乞ふを得ず文中若し誤あらば一に是れ編輯子の責任なり。





●小學算術書使用

上の注意 (承前)

神奈川縣師範學校訓導

服部 富次郎

◎尋常科第三學年

第一 本學年の主眼

- 一、一萬未満の數につき筆算加減乗除の習熟をはかる
- 二、簡易なる應用問題の解き方に習熟せしむ。

第二 第一學期に於ける諸注意

一、唱へ方書き方

1. 位取法、數を讀むこと、記數法等の正確敏捷なるは筆算の成績に多大の影響を及ぼすこと、此の三者は相互に密接の關係を有するを以て相俟ちて之を練習すべきことに留意すべし。
2. 記數法は視寫、聽寫、漢字にて表したる數を數字にて表すこと及び其の逆なる表し方共に十分に

練習すべし。

3. 缺位ある數の書表し方は特によく練習すべし。
4. 此の時期より加減乗除の基礎的暗算は絶えず練習すべし。

二、暗算其の二

1. 命數法を明かにすること、筆算加減乗除の理由の理解に資すること等を主なる目的とす。上の目的に添ふを以て足れりとすべし。

三、筆算の加法

1. 整數の寄せ方の教授は本學年に於て完成すべし (練習を本學年に於て結了するの意にあらざ引算に於て代亦然り)
2. 數の列べ方、計算の順序、結果の書き方、驗算の方法等を確實に授くべし。又數字の書き方を整然たらしむる様深く注意すべし。
3. 加法其の一に於ては次の如く特に嚴密に順序を立て、教授するを可とす。
 - イ 缺位なき桁數の揃へる數を寄合すること。
 - ロ 缺位なき桁數の揃はぬ數を寄合すること。
 - ハ 缺位ある桁數の揃へる數を寄合すること。

ニ 缺位ある桁數の揃はぬ數を寄合すること。

ホ 雜題的練習。

ヘ 名數に關する寄算。

4. 應用問題の取扱より入りて教授を進むるは可なり。

不名數又は單名數の計算に熟したる後複名數の計算に移るべし。(缺位ある十進諸等數の計算の最も誤り易きことに留意すべし。)

5. 運算形式は實例によりて之を會得せしめ類題に應用し得るを以て足れりとすべし。強ひて抽象的に説明せしむるに及ばず。

6. 口唱による問題提出、漢字による問題提出を成るべく多くすべし。

7. 看取計算を過重すべからず。

8. 時々運算力を競はしむべし。(己れ自ら競はしむるを最良とす。)

教授訓練

四、應用問題其の一

1. (5)及び(5)は加法による算式を立てしめて可なり
 2. (8)の如きは兒童の學力如何によりて適宜容易なる形にかふるを妨げず。(例へば『母はいくつ。父はいくつ』とかふるが如し。)本問題は相當なる學力を有する兒童には『父はいくつ。母はいくつ。』と問へる点頗る有効なりと思はる。
 3. 附加材料 部分を知りて全體を求むるもの。
- #### 五、筆算の減法
1. 整數に關する引き方の教授は本學年に於て完成すべし。
 2. 筆算の減法其の四の前に於て百、何十といふ數何百といふ數より一を引くことをよく練習すべし

3. 下の桁に貸したる數を引くを忘るゝこと、減法其の四に誤りの最も多きこと、被減數の或桁の數を減數の同じ桁の數より引くものを生じ易きこと等の缺陷に留意して教授を進むべし。
4. 驗算は反覆法によりたる後加法によりて之を行はしむべし。

附 町段畝の教授につきては其の前に坪のことを授くるか、又は第二學期に於て坪のことを授けたる後之を授くるを可とす。

六、復習其の一

1. 加減の復習と括弧用法の教授とは本題目の主眼とする所なり。
2. 括弧の教授につきては事實問題の解き方より入りて其の必要を感じしめたる後之を提示するをよしとす。
3. 右提示の後には括弧を含める算式問題を十分に練習すべし。始めには暗算によりて計算し得るものを數多く練習せしむるを有効なりとす。
4. 括弧を含める算式問題を計算せしむるのみならず括弧を含める算式を記ししむることをも交ふべし。

七、應用問題其の二

1. 4の如き事實の込入りたるものは兒童の學力に應じて簡易にするを妨げず。

2. 附加材料

- イ 差を求むるもの。
- ロ 大小二數の中の大なる數と大小二數の差を知りて小なる數を求むるもの。
- ハ 補足すべき數を求むるもの。
- ニ 引去るべき數を求むるもの。

八、應用問題其の三

1. 補充材料次の形式に従ふもの。

イ $(a+b)-c$ 。
 ロ $a-(b+c)$ 。
 ハ $a+(b-c)$ 。

2. 兒童の學力に應じて困難なるものは之を第三學期に送るも可なり。

第三 第二學期に於ける諸注意

一、暗算其の二

1. 本教材は既に述べたるが如く第一學期に於ても絶えず練習しこゝにてはそれを整理する様にすべし。

し。

2. 零の掛算は新授材料なり尋常科第二學年一の掛算九々と同じく形式不易の原則によりて之を理會せしむべし。
3. 本教材を取扱ふ前後より基礎に基礎を掛け基礎を加ふることをも練習すべし。

二、基礎を掛けること

1. 本教材はそれ自身が重要な教材なるのみならず法二桁以上の掛算の基礎として必要缺くべからざるものなり。確實に練習を積まんとを要す。
2. 繰上る數を加ふるを忘るゝこと、十又は何十となる九々を交ふるものを誤り易きこと等の缺陷に注意すべし。
3. 乘數は必ず不名數たるべきこと、名數に掛くれば必ず同名の數となることは加法と對照して之を明瞭に授くべし。

4. 二桁以上の割算の準備として又乘法の簡便法として例へば 35×8 を計算するに『八八六十四』と唱へて4を書き『三八二十四』と唱へ二十四に六を足して三十とし30を書き添へて304を得るが如き練習を折々行ふべし。

5. 本學期及び第三學期に於ては不十進諸等數に關する基礎的材料の多く出でたることに留意すべし

6. 時計の見方は徐々に練習して尋常科第四學年第二學期に至りて全部之を纏むる様にすべし。

三、二桁以上の掛算

1. 部分積は必ず乘數の眞下より書始むべきことを特に確實に授くべし。理由を理會せしむること、相俟つべきこと論を俟たず。
2. 簡便法の如きは餘りに早くより之を授けざるをよろしとす。

四、應用問題其の五

1. 補充材料 $(a \times b) + (c \times d)$ の形式による應用問題の基礎となる材料及び $(a-b) \times c$ の形式によるもの。
2. (9)及びひりは兒童の學力如何により之を第四學年に送るも可なり。

五、復習其の二

1. 乘法の復習 連乗及び括弧用法の練習、乘法に關する定理を應用して計算を簡便にする練習等は本教材の主眼なり。
2. 定則は幾多の問題を計算せしめつゝ之を發見せ

しむべし。

3. 定則の教授に關する一例

例 六十頁第一の定則の教授

イ 第一段 定則を理會せしむること。

ロ 第二段 一列に排せられたる三題（實は三數を掛合するには六通りの場合あれども）中最も簡便なるもの一題につきて計算を行ひ之を其の三題の答とすること。

ハ 第三段 或一つの問題につき最も簡便なる方法をとる結果を求むること。

4. 個々の計算を誤らざる兒童にありても複雑なる計算を行ふ際眩惑せられて誤を來すものある点に注意すべし。

第四 第三學期に於ける諸注意

一、暗算其の三

1. 本教材は暗算其の二と同じく第一學期以來絶えず練習して茲に之を整理する様にすべし。

2. 材料はすべての場合を盡す様に補充を行ふべし困難なる材料の練習に重きを置くべきこと論を俟たず。

3. 30×10 の如く小なる數を大なる數にて割るものは茲には『割れぬ』と答へしめて可なり。

4. 零に關する割算始めて出づ零に關する掛算に準じて之を授くべし。

二、法の基數なる割算

1. 被除數及び除數の書き方、部分實のとり方、商の書き場所、掛けたる結果を引き得るや否やを檢すること、餘りと法との大小を必ず比較すべきこと等を確實に授くべし。

2. 驗算の方法は筆算の除法其の一の最初に於て之を授けずや、熟したる後之を授け以て混乱に陥らしめざる様にすべし。

3. 此の材料を取扱ふ頃より商の桁數を見定むることを折々練習すべし。

4. 簡便法を早くより授けざるを可とすること乗法に同じ。

三、法の二位數なる割算

1. 本教材を取扱ふ頃までに成るべく暗算によりて二位數に基數を掛くことに習熟せしめおくべし。

2. 法二位數商基數なる割算はそれ自身において肝

要なる教材たるのみならずあらゆる二桁の割算の基礎として又法三桁以上の割算の商を立つる基礎

として重要な材料なり。大に教材を補充し確實なる成績を擧げんことを努むべし。

3. 二桁以上の割算に於ては法の首位の次に位する數の小なるものが商又は部分商の發見に容易なるの点に留意して教材の選擇及び排列を行ふべし。

4. 商の大きさを立ろに發見せしむる良法なし。便宜左の方法をとり自然に熟達するを待つべし。

除數の五倍（概算にて可なり）と部分實とを比較すること。

除數の左端の數（若くは之に一を足したる數）と被除數の左端の數との關係をしらふること。

凡そ幾つと立てたる商を除數に乘じ（暗算によりて概算せしむ）部分實と比較すること。

5. 補充材料

イ 法二位數商基數なる割算。

ロ 十進諸等數の割算に於て實の桁數が足らざる

四、暗算其の四

1. 割算に於ける概算及び驗算に影響を與ふるは本

教材の主眼なり。

2. 前にも述べたるが如く筆算の除法其の一を課する頃より商の桁數を見定むることを練習し茲に之を整理する様にすべし。

五、復習其の三

1. 割算に二つの場合あること、名數を不名數にて割れば同名の數となること、名數を同名の數にて割れば不名數となること等は實例によりて確實に了解せしむべし。

2. 名數を名數にて割るとき單位の揃はぬものを附加すべし。之を附加せざれば應用問題其の七に至りて困難多かるべければなり。

六、應用問題其の七

1. (I)及びIは不合理なる問題なり改作又は削除すべし。

2. (II)及びIIの如きは強ひて算式を立てしむるに及ばず。

3. 反比の問題は之を尋常科第四學年に譲るを可とす。

4. 補充材料 $a \times (a + c)$ の形式によるもの。

理科教材の系統 (一)

神奈川縣女子師範學校訓導 櫻井 助

茲に理科教材と云ふのは、尋常小學理科書並に高等小學理科書に現はれたる教材を指したのである。

吾人が理科教授をなす上に於て其教材の縦の連絡即ち教材の系統を知悉することの必要は今更云ふまでもない、之れをよく理解して教授を進むるならば、よし其方法は拙であつても兒童が卒業の時に荷うて出る活ける理科的知識及能力の分量は、斷片的に一時限を華やかにさまりづけて行く教授よりも確かに多いであらうと思ふ。何れの教授に於ても自分が確信を以て教壇に立つた時と、大なる自信なくして教壇に立つたと、其教授の效果に就て吟味すれば思半に過ぐるものがある。自分は茲に精神力と精神力との接戦と云ふ事を想像せざるを得ぬのである。

即ち教授なるもの訓練なるものは人生に於ける一種の戰闘曲であらうと思ふ。併しながら我々の精神力を以て兒童の精神力を威壓し征服すると云ふ意味では勿論ない。我々の精神力を以て彼等の精神力を鍛える、助成する、展開せしむる、と云ふ意味に於ける戰闘曲で

あると云ふのである。

既に鍛えるのである、助成するのである、展開せしむるのである。『アンピル』は飽くまで堅固でなければならぬ。槌も同様に堅固でなければならぬ。併しながら若し『アンピル』にして堅固ならざらんか槌の堅固なるは却つて害をなすであらう。

我々が理科教授をなす上に於て、教材の系統は此の『アンピル』であり、槌は一時限／＼の教材ではあるまいか。そして教授の方法は焼の鹽梅や鍛え方等ではあるまいか。

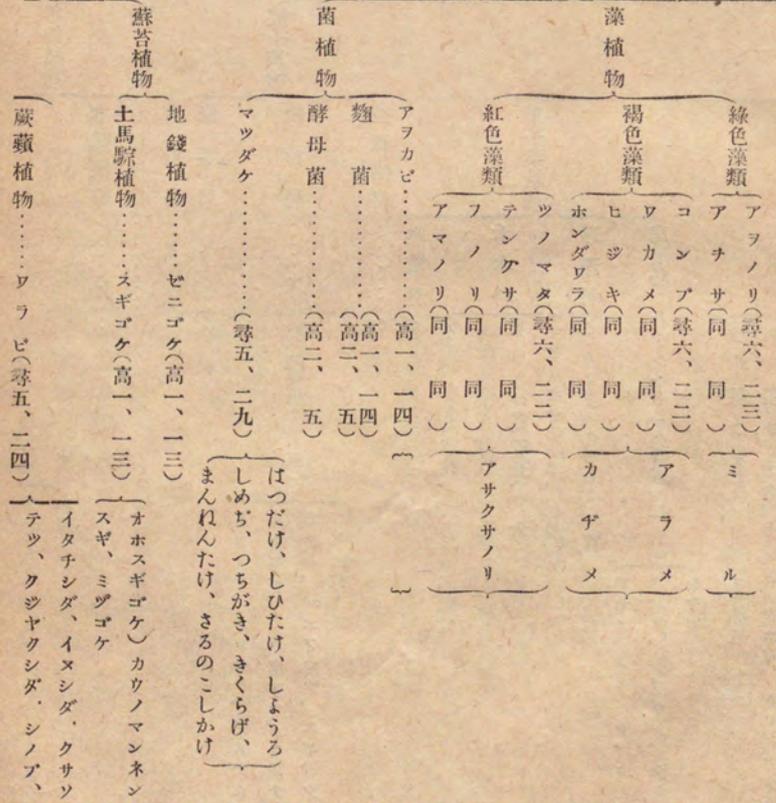
此三拍子揃つて始めて『メロデー』な曲は奏せられ教授の効果が永久になるのではあるまいかと思はれる。そこで此一時限の教材教授の方法等は比較的研究されて居るにもかゝらず教材の縦の連絡にあまり着眼されないこと云ふ事は、教材が概観されないと云ふ事になり、結局理科教授が支離滅裂になると云ふ事になりはすまいか。先づ隗より始めよと左に植物教材の系統について少しく述べて見やうと思ふ。

一、植物教材の自然的分類は左表の如くである。

第一部 動菌植物

分生植物……バクテリア(高一)
硅藻植物……

第二部 菌藻植物



植物 第三部 苔蕨植物

教授訓練

羊齒植物

ラシダ、トラノヲシダ、ハコネシダ

木賊植物

石松植物

蘇鐵科

麻黃科

裸子植物

松杉科

マ ッ(尋五、五)

アカマツ、クロマツ、アスナロ
イトヒバ、カウヤマキ、コノテ
カシハ、ゴエフマツ、スギ、ツ
ガ、モミ、

公孫樹科

水龍科

イ ネ(尋五、二〇)

ム ギ(尋五、七)

タ ク(尋五、六)

サタウキビ(高二、四)

浮萍科

ウキクサ(尋五、一八)

葎尾科

ハナシヤウア(尋五、一二)

アヤメ、イチハツ、カキ
ツバタ、サフラン、セキ
シヤウ、

穀斗科

リ(尋五、二一)

カシ、アナ、カシワ、クヌギ、シビ、コナラ

藜科

サタウダイコン(高二、四)

苧科

キノコヅチ(尋五、二八)

ケイトウ、センニチサウ

第四部 顯花植物

被子植物

睡蓮科

ス(尋五、一八)

カハホネ、オニバス

金魚藻科

キンギヨモ(尋五、一八)

樟科

クスノキ(高二、四)

クロモジ、ニクケイ

十字科

アブラナ(尋五、一)

ナツナ、ダイコン、カブラ、スマシロサウ、ワサビ

荳科

インゲン(尋五、一九)

ムスビトハギ、

(ゲンゲサウ、ソラマメ、フヂ、ナタマメ、ナンキンマメ、

ハギ、ツメクサ、サ、ゲ、クズ、エンドウ、ミヤコグサ)

酢漿草科

カタバミ(尋五、一八)

亞麻科

ア マ(高二、七)

芸香科

ウ

漆樹科

ル シ(高二、七)

ハゼノキ(同)

械樹科

カヘ(尋五、一八)

七葉樹科

トチノキ(尋五、三四)

葡萄科

ア ヱ(尋五、一八)

(高二、五)

錦葵科

ワ タ(高二、四)

安石科

ザ ク ロ(尋五、一八)

梧桐科

...

雙子葉植物

離瓣植物

合辦植物

石南科...ツ	デ(尋五、四)
柿樹科...カ	キ(尋五、二六)
旋花科...ア	サガホ(尋五、一九)
	サツマイモ(尋五、三〇)
	(高二、四)
茄科...ナ	ス(尋五、一三)
	シヤガタライモ(尋五、三〇)
	(ハダカホ、ツキ、タバコ)
支參科...キ	リ(尋五、一八)
葫蘆科...キ	ウリ(尋五、二三)
	(カラスウリ、シロウリ、タウナス、ヘウタン、ヘチマ)
菊科...キ	タノホ(尋五、二二)
	ク(尋五、三二)
	(メナモミ、チナモミ、ヨモギ、ヨメナ、ヤブレガサ、フナバカマ、エツギク、ノアザミ、ノゲシ)

備考 表中「ヲ附シタルハ科ヲ同ニスル植物名ニシテ教材ニハアラザルモノナリ

以上は理科教材を自然的に分類したものである、て勿論かゝる分類は兒童に教ふるのではないけれども、自然界(植物)の各部分に亘つて居る有様を先づ一まとめにして頭の中に容れて括つて置くと云ふことが、教師として必要であるのである。教科書には斯くの如き教

材が排列してあるけれども、都合によつて此教材を變更する必要の起つて来る事がある。即ち理科書開卷第一頁の凡例の第三項に『本書に掲げたる植物動物等は主として東京附近に普通なるもの、中より選擇したるものなり、されば事情を異にする地方に於て本書を用

ふる場合には適宜に教材の取捨をなすべし』と明記してある。若し此場合に於て前の自然分類表を度外視することがあれば、普遍的に宇宙を理解せしむると云ふ上から云つてそこに缺陷を生ずるはまぬがれまい。之れが教授者の頭の中に括つてなければならぬとする理由の一である。

吾々に此分類と云ふ意味が明瞭であればあるだけそれ等の特徴が的確にさうして關聯的に兒童の頭にぶち込むことが出来る。教授者が斯くの如き頭を以て臨むならば比較概括と云つた様な作用は常に兒童の腦裏に反覆せられ自然に彼等の心力は練磨せられ、論理的になりゆく道理である。之れが教授者の頭に全教材が括つてなければならぬとする理由の二である。

凡例第二項にもある如く教材は或は難易の順序を考へ或は季節により或は其他即ち生活共存體としての如き事情を參酌して排列してあるのだから、動物があるかと思ふと植物もあり、物理があるかと思ふと化学があるかと思ふと鑛物と云ふ様に外見上からは錯雜して居る様な感がある。然しながら以上の三点から推して考へれば決して錯雜しては居らないのみならず上手に自然的に排列されてある。そこで一つ大切なこ

とは各別々の系統をたどつて類化させて行くと云ふ事である、決して生活共存體と云ふ様な種類の一つの理法にのみ拘泥すべからずと云ふ事である。例へば油菜ともしる蝶とは生活共存體として取扱ふ、それは中々面白いがその次のつゞぎを教ふる場合に、油菜と比較すると云ふことを多く用ひなければ兒童の思想を擴大することは出来ない。思想を増すことは出来ないのである。即ち教授者は植物教材は植物教材として其系統を明瞭に意識する必要がある。之れ理由の三である。

擧げ来ればまだ幾多の根據があるけれども、要するに理科教材を體得し整理し觀念の復起が極めて適切に敏捷になる様にするとかやがてメロテイーな曲を奏し得る事となるのであらうと思ふ。

私が茲に主張せんと欲する所のものは、受動的の抽象的の實質なき――よしある様に見えても其實空虚な――機械的の知識よりも、或事實事實の内面の流を感得し以て生命ある知識として――よし狭くとも――教材を支配せよと云ふのである。

植物教材の系統について猶次號に於て愚見を述べて見ようと思ふ。

● 雞 肋

(高三年讀本) 其の九
研究の一端

第二種讀中學校 高津才次郎

● 第五課 山鹿素行ヲ祭ル

八八五 山鹿素行に關しては八六四に略叙した。『乃木院長記念録』第十九 乃木院長と先哲といふ項には楠木正成、加藤清正、山鹿素行、吉田松蔭を院長が欽慕崇重された事どもを録して有る。乃木大將が學問の側で最も尊信されたのは素行と松蔭とである。ついで一度も素行と呼捨てた事がなくいつも素行先生と言はれたさうである。

明治四十年十月二十三日特に正四位を追贈されたので其の年の十二月二十九日牛込榎町の宗參寺で其の報告祭を執行。宗參寺は素行の墓地である。當日墓前で大將の讀まれたのが本文で、後日に素行會(四十一年十二月開會式を行ふ會長は松浦伯爵)から繪葉書に印刷して頒布されたものである。文辭は簡潔であるがよく素行の人物を言盡し先哲景慕の意緒表に溢れて居る。乃木大將の人格を完成する原因は種々有つたらうが、尊王家、武士道發揮者、孔孟の實學鼓吹者たる博學卓識高德の素行に負ふ所も極めて多いであらう。第四課

『乃木大將』に接するに此の篇を以てす、教授者はよく茲に意を致して教へねばならぬ。形式上からは斯の種弔祭文の体裁を味讀せしむべし。

八八六 本文の結構。第一段は始より『山鹿先生ノ靈ヲ祭ル』まで、第二段は『昭代ノ盛事ト申シ奉ルベシ』まで。此の内三小段に分る。『惜シムベキカチ』までが第一、『亦尠シトセズ』までが第二、『以下第三。第三段は『賜ト謂ハザルヲ得ズ』まで。以下第四段、第一段と第四段とは首尾、即ち起筆と收束である。總論と結語である。第二段は先生の性行と當時及後代に與へた感化影響を叙す。其の内第一小段は先生の性行、第二小段は當時及後代に與へた感化影響、第三小段は以上に對する聖恩。(之を大段と見てもよし)第三段は大將と素行との關係。

八八七 第二段中に六對句有り、生徒に指摘せしめさてかく謹嚴なる文に對句の妥帖するを説くべし。
八八八 贈正四位。と正四位との異同は生徒をして説かしむべし。

八八九 國體ノ精華云々 著書にては中朝事實、武教何々(八六四)の如きを指す。

八九〇 名分 物有れば名有り、名有れば分有り。

親と子と有ればそこに親子の名が有る。親子の分が有る。即ち親子の別が有り、義が有る君と臣と有ればそこに君臣の別君臣の大義が有る。斯の如きを總じて名分といふが、狹義に君臣にのみ關して使ふ事が多い。

八九一 經綸 國家を治め社會を救ふといふやうな大きな目的、希望、抱負をいふ。經も綸もいとであるなはである、縦横に引いて建築の骨を拵へるといふ字面である。

八九二 轆轤 車の行かね貌、轉じて目的通りにならぬ不平の貌。轆轤不遇など熟す。

八九三 困頓 くるしみつまづく。

— 二二頁 —

八九四 當世 (一)其の世。(二)今の世。此處は(一)の意(當時にも兩義有り)

八九五 籠罩 籠蓋、圍子とも言ふ。『當世ヲ籠罩シ』て其の當時第一番で。

八九六 乙夜の覽 イツヤノラン。天皇陛下の御書見をいふ。戌(午後八時頃)を甲夜とし亥(十時)を乙夜とし、斯くして寅(午前四時)の戊夜に至る。(之を五夜といふ、又之を初更より五更とも數ふ)唐の太宗の『若し甲夜事を觀、乙夜書を觀ざれば何を以て人君と爲さ

ん』より出づ。

明治四十年の春野村子爵(松陰門下)邸に乃木大將、金子子爵、稻垣滿次郎氏、柳谷謙太郎氏、三上、井上(哲)兩博士等相會し、平戸(松浦氏の故地)から取寄せた素行の遺物を展覽、其の中十二点を天覽に供する事とし大將其の任に當る。此等の遺物は十日間程、明治天皇の御手許に留めさせられ、四月二十日の日附を以て宮内省から返却、それから特旨を以て贈位となつたのが前述の通り十月二十三日。(乃木院長記念録に據る)

八九七 世道 セダウと讀んでよからう。

八九八 師父云々 記念録年譜文久三年十五歳の處に『十二月父より武教講録を受く』と有る。又大將が十六歳より師事した玉木正韜は松陰の實父杉百合之助常道の弟で山鹿流の皆傳を受けた人である。大將の實弟眞人正誼其の養子となり松蔭の姉を娶る。大將と松蔭素行との關係は實に其の源泉が深くして且つ遠いのである。

八九九 期セシニ 此のニは軽く取るべし『期したるが』であつて『期したけれども』でない。

九〇〇 不肖 肖はにると訓じ父に肖ること。父に肖ぬ愚かものを不肖といふ。轉じて第一人稱の代名詞

となる。

九〇一 殘軀 のめくくと生殘つた躰。疾うに死ぬべきを耻多くも生き長らへて居る身。謙語であるが、大將の心事を考へるともとより通り一遍の辞柄ではない。嗚呼文は人なり、大將の語には一つく權威を帯ぶるを覺える。

九〇二 涓埃 水のしづくとはこりといふ字で、少しの義。

九〇三 叨 忝と注し、おもひかけず、存じよらずの意にて謙遜の辞に用ふ。

九〇四 今古を俯仰し 昔や今の事を思ひ廻らし

九〇五 感慨殊に切なり 何とも言ふに言はれぬ心持が取分けて深い。

九〇六 梁 えた。序にいふ、『百戰百勝梁勝軍』の如きは乃木の二字を目で見ると形の方から一字に拵へたもので、日光山を晃山とし、鹿兒島を鹿城とするも同じく、或は又口に發する音の上から小石川を礫川としたり、神奈川を金川とすると等しく音數律のやかましい漢詩文に慣用の一方法である。

九〇七 尙クハ之ヲ饗ケヨ コヒネガハクバコレヲ

述してある様である、例へば空氣が場所を占むること即ち不加入性(尋五、四二課)の實驗は次の順序によつて居る、

- (1) 空氣の存在すること。
- (2) 空氣の存在せる處には他物の入らぬこと(同課實驗一)
- (3) 空氣が出れば他物は其處に入ることを得……

……(同課實驗二)

(4) 故に空氣は場所を占むるものなり。實驗はなるべくかゝる順序によつて正確に理解せしむる様にすることが必要である。

二、なるべく簡易なる方法を取ることに

簡易なる方法と云へば多くの條件を含んで居る、

- (1) 比較的短時間に行ひ得るもの。
 - (2) 比較的短時間に準備し且始末し得るもの。
 - (3) 比較的經濟的に行ひ得るもの。
 - (4) 比較的容易に行ひ得るもの。
- 等は其重なる條件である。此点に關しては國定書には改良を要する實驗が甚多い、例へば

- (1) 酸素の捕集(尋五、四九課)にはフラスコを用ひず試験管を用ひこれに藥品を入れて熱すれば容

ウケヨ。或は『魂髻髻トシテ來リ亨ケヨ』『在天ノ英靈尙クハ來リ格レ』のたぐひ、漢文に於ける祭文結尾の慣句である。此の祭をどうぞ受けて下されの意。

—二三頁—

●理化實驗の十指針

神奈川縣師範學校教諭 河邊良平

理化教授の徹底は實驗に待つことが多い、しかし漠然と實驗を行ふならば其効果を失ふものである、實驗法の採擇につきても實際實驗を行ふ場合に於ても極めて周到なる考慮を要するのである、國定書の理化實驗法には改良を要するものが多々ある、これにつきては追つて記述することとし、茲には實驗法の採擇、改良及び實驗上の注意に關して十項の指針をあげ、例を國定書の實驗に取つて説明を試みるのである。

一、論理的の順序によること。

實驗は眞理又は法則を理解せしむるために行ふことが多い、従つて論理的の順序によるべきは明かである、又これが自ら兒童の心理に適合した順序と云ふことにもなる。國定書も此点に關しては注意して記

易に酸素を發生し三、四個の集氣瓶には數分間にして捕集することを得。

- (2) 炭酸ガスの實驗(尋五、五三課)に於ても試験管を用ひて瓦斯を發生せしめこれをコップに集め炭酸ガスが空氣より重きこと、燃焼を助けざること、石灰水を白濁にする等炭酸ガスの性質に關する實驗は大抵行ふことが出来る。
- (3) 燃焼によりて炭酸ガスを生ずること(尋五、五四課)を實驗するには國定書の如く吸氣装置を用ひず、一つの漏斗を炭火上に倒に保ち試験管中に炭酸ガスを捕集し石灰水を白濁せしむることを實驗することが出来る。

其他此種の改良を要するもの多々あるも煩を避くるため記述せず、物理の實驗に於ては教師又は兒童が簡易に製作し實驗し得るもの甚だ多いのである。

三、出來得る限り正確なる方法によること

實驗は正確に行ふべきは勿論兒童が了解し得る程度に於て精密に行はねばならぬ、例へば鉛直線及び水面(尋五、三四課)の教授に於て絲の一端に錘を附して保ちたる時、絲の方向が鉛直線の方向であると説明したのみでは不充分である、此實驗に於ては少

なくも同様の装置を二個以上用ひ同時に實驗して絲が同一の方向を取ることを示さねばならぬ。水平面の實驗に於ては水面と鉛直線とのなす角を直角定規を用ひて絲の周圍の各場所につきて測らねばならぬ。又水を入れたる器を傾けて同様に角度を測らねばならぬのである。

四、現象の著るしきものを選ぶこと

實驗に於て現はるゝ現象の著るしきものを選び、ことは明瞭に理解せしむるために特に小學校に於ては必用である、例へば空氣の壓縮性の實驗(尋五、四二課、實驗四)に於て硝子尖口の部分に自轉車のタイヤ用のポンプを附し空氣を推し入れて後これを去れば水は數丈の高さに推し上げらるゝのである、熱による氣體の膨脹(尋五、四五課實驗三)に於ても水を入れるたるフラスコに尖口を有する硝子管を通じたる木栓を施し、尖口を塞ぎてフラスコを熱したる後尖口を開けば水は急に迸出するのである、かくして其現象を著るしからしむることが出来る。

五、興味ある方法を取ることに

實驗は理化教授に興味を興ふるに極めて必要なるものである、もとより興味は主目的にあらずして副的

ものなれども小學校に於ては決して輕んずべきものでない、故に實驗の方法もなるべく興味あるものを採用せねばならぬ、例へば炭酸ガスが空氣より重きこと(尋五、五三課、實驗二)を實驗するに輕き天秤を作り一端に紙製の袋を附して釣合はしめたる後炭酸ガスを袋の中に入れば平均を失ふことを示す如き或は水素が空氣より輕きこと(尋五、五〇課、實驗三)の實驗に於て實際にゴム風船を作りて飛揚せしむれば一層興味を興ふることが出来る如きは其一例である。

六、短時間に行ひ得る方法を取ることに

實驗に多くの時間を要し、ために教授全體を破壊するとは間々あることである、故に實驗はなるべく正確に且つ短時間に行ふ様にせねばならぬ、教授時間中に於て結果を得能はざる如き實驗は改良して短時間に行ひ得る様にせねばならぬ、例へば明礬を用ひて淨水を行ふ實驗(高一、二五課實驗二)の如き國定書の方法に於ては數時間を費さざれば結果を示すことが出来ぬ、然るに明礬水を加ふると同時にアンモニヤ水をも加ふれば數分にして著るしき結果を示すことが出来る、或は澱粉より葡萄糖の成生(高二、

四課、實驗五)の如き澱粉の分量によりては數時間を費し或は數分間にて實驗を結了することが出来るのである。

七、實驗は出來得る限り多くの方面より行ふことに

一つの事實を決定するために實驗を行ふには常に表裏兩方面より行ふがよい、例へば水は酸素と水素より成ること(尋五、五一課)を決定するに一方には酸素と水素と化合して水を生ずることを實驗し、一方に於ては水を分解すれば水素と酸素とを生ずることを實驗するがよい、熱による膨脹(尋五、四五課)の實驗に於て熱を加ふれば固体も液体も氣體も膨脹することを實驗すると共に冷却すれば收縮することを實驗するがよい、斯の如く兩方面より實驗し得る事は少くないのである。

八、一つの實驗は出來得る限りこれを利用すること

一つの實驗を行ふ際には其方法、注意及び結果等につき出來得る限り兒童に質問し觀察せしめ其効果を大ならしめねばならぬ、例へば空氣の不加入性の實驗(尋五、四二課實驗二)の如き空氣が出づれば水が入り來ることを實驗し得ると同時に曲管の先を塞ぎて空氣が出てざれば水の入り來らざることを實驗す

ることが出来る、かゝる簡單なる装置にても其他に兒童と問答すべき多くの材料があるのである。

九、なるべく直接に事實を證明する實驗を取ることに

實驗によりては直接に事實を實驗すること困難にして間接の實驗に依らねばならぬことがある、例へば氣體の壓縮性(尋五、四二課實驗三、四)の如きは國定書に於ても氣體が膨脹することを實驗して壓縮性を推定する様になつて居る故に氣體の壓縮せられたる状態は示すことが出来ぬ、此實驗も試験管に半ば水を入れ硝子曲管を通じたる栓を施し之を倒立して曲管より吹けば壓縮性を直接に實驗することが出来るのである、かく多くの實驗は改良工夫によつて直接に實驗することを得る様になるのである。

一〇、觸覺に訴ふる實驗はなるべく避くることに

多數の兒童に實驗中に起る現象を示すに觸覺に訴へなければならぬことがある、これは極めて不便なることである、熱の實驗(尋五、四四課)の如きは其例である、かゝる場合に於てはこれを視覺に訴へる様に工夫することが出来る、即ち感熱板と稱し沃化銀水銀を塗りたる紙片を用ゆるのである此特質は攝氏四十五度以上に熱すれば鮮紅色となりそれより以下の

溫度にては黄色となるものなる故に熱量の多少をこれに觸れて測ることが出来るのである。沃化銀水銀は硝酸銀、沃化加里及昇汞を適當に化合せしめて作ることが出来るものである。(終)

● 學校園の施設 (其二)

神奈川縣女子師範學校訓導 中 村 謙 三

六 植物の種類

前號五に於て學校園地の區分法を述べて置きましたから此には其の區域内に培養すべき植物に就て述べたいと思ふ。學校園に採用すべき植物は、兒童教育上價值より見て之を選択すべきである。其の着眼よりすれば先づ教科書に採定せられたものを取り且つ日常生活に關係あるものをとる事が極めて適當であると思ふ。之の二點に基いて調査研究し本校に實施せる状況を記載して参考の一端に供へたいと思ふ。勿論研究中途のもので完全なものではないので御座います。

◎ 教材園

○ 木本區

有用樹木類

○ 草本區

果菜類

カボチャ 葫蘆科 ナス 茄科 ウリ 葫蘆科
カラスウリ 葫蘆科 ユフガホ 同上 ヘチマ 同上

上

根菜類

ユリ百合科 ニンジン 繖形科 ゴボウ 菊科
ダイコン 十字科 カブ 十字科 イモ 天南星科

葉菜類

シン 唇形科 カラシナ 十字科 アブラナ 十字科
科 山東菜 十字科 白菜 同上 體菜 同上

ネギ百合科

禾穀類

トウモロコシ 禾本科 カラスムギ 禾本科 大
麥 禾本科 小麥 禾本科 稻 禾本科 ソバ 蓼科

科

萱 菘類
インゲン 荳科 フヂマメ 同上 ナタ豆 同上
ソラマメ 荳科 大豆 同上 小豆 同上 エン

下 荳科

サ、ゲ 同上

◎ 参考園

○ 効用區

教授訓練

マツ 松杉科 スギ 松杉科 ヒノキ 松杉科

クスギ 殼斗科 クリ 殼斗科 カシ 殼斗科

ナラ 殼斗科 シイ 殼斗科 カシハ 殼斗科

クス 樟科 ハシノキ 樺木科 シラカバ 樺木科

カキ 柿樹科 サクラ 薔薇科 ケヤキ 榆科

キリ 玄參科

觀賞類

ツ、ジ 石南科 ボタン 毛茛科 ツバキ 山茶科

バラ 薔薇科 フヂ 荳科 アヂサイ 虎耳草科

サザンクワ 薔薇科 ハギ 荳科 百日紅 千屈菜科

科 ナンテン 小蘗科 カラマツ 松杉科 ヌ

スピト ハギ 荳科 シユロ 椴科 ユヅリ ハ大

戟科 モミヂ 槭樹科 ヤナギ 楊柳科 イテフ 公

孫樹科

果樹類

ザクロ 安石榴科 ビハ 薔薇科 モ、同上

スモ、薇薔科 リンゴ 同上 ウメ 同上 プ

タウ 葡萄科 ダイダイ 芸香科 カラタチ 同上

ミカン 芸香科 ユヅ 同上 ナシ 薔薇科 ナ

ツメ 鼠李科

織維類

科

× カラムシ 蓼麻科 × アサ 桑科 × ワダ 錦葵科

× アマ 亞麻科 × メウガ 藜荷科 フヨウ 錦葵科

染料類

× アキ 蓼科 クチナシ 茜草科 ハシノキ 樺木

科 ボウシバナ 鴨跖草科

油臘類

× ゴマ 胡麻科 トウゴマ 大戟科 ヌルデ 漆樹

科 イボタノキ 木犀科

製紙類

ガンビ 瑞香科 カウゾ 桑科 ミツマタ 瑞香科

アヲギリ 梧桐科 トロ、アフヒ 錦葵科

嗜香類

シヨウガ 藜荷科 ミツバ 繖形科 シコ 茄科

× 茶 山茶科

飼料類

クハ 桑科 シロウメクサ 荳科 ウマゴヤシ 荳

科

藥用類

× オホバコ 車前科 × ゲンノシヨウコ 稚牛兒科

ザキタリス 玄參科 ハブサウ 荳科 メナモミ

菊科 フナモミ菊科 サフラン蘭科 ハッ

カ唇形科 ドクダミ三白草科 タウコギ菊科

澱粉類

×シヤガタライモ茄科 ×クズ荳科 ×サツマイ

モ旋花科 カタクリ百合科

砂糖類

×サトウキビ禾本科

特殊類

オランダイチゴ薔薇科 ハボタン十字科 タ

マネギ百合科 トマト茄科

觀賞類

○木本部

サカキ山茶科 ヒサカキ同上 ニシキギ衛矛

科 ヤツデ五加科 メギ小蘗科 デンチヤ

ウケ瑞香科 ムクゲ錦葵科 ナツメ鼠李科

タイサン木木蘭科 モクレン木蘭科 ハクチ

アウゲ茜草科 キンシバイ金絲桃科 ノウゼ

シガツラ紫葳科 ハイビヤクシン松杉科 ヒ

ムロ同上 カウシンバラ薔薇科 ユスラウメ

同上 カイダウ薔薇科 ヤマブキ同上 ボ

ケ同上 エニシダ科 キンモクセイ木犀科

上 フダマキ同上 フロツクス花葱科 チ

ユウリツブ百合科 アラセイトウ十字科 ツ

キミノウ柳葉菜科 アネモネ毛茛科 トレニ

ア玄參科 シネラリア菊科

有毒區

トリカブト毛茛科 タケニグサ罌粟科 クサ

ノワウ同上 センニンサウ毛茛科 ヤマゴバ

ウ商陸科 キンバウゲ毛茛科 タガラシ毛茛

科 キツネノボタン毛茛科 オキナグサ毛茛

科 クララ荳科 ボタンヅル毛茛科 ヒガ

ンバナ石蒜科

○郷土區

○木本部

ハギ、ハンノキ、クリ、ムラサキシキブ、ネムノ

キ、クハ、タケ、カシ、ケヤキ、サハラ、カヤ、

ウコギ、サンセウ。

○草本部

ス、キ、ニハホコリ、ヒメムカシヨモギ、ツルボ

ヨモギ、アカザ、タンポ、キノコヅチ、フジバ

カマ、ヲミナヘシ、カルカヤ、ヤブソテツ、ゼン

マイ、ワラビ。

レンゲウ木犀科 ×キキヤウ桔梗科

○草本部

シチン菊科 ヒヤクニチサウ同上 ダリヤ同

上 ヒマハリ菊科 シネラリア同上 コス

モス同上 ハルシヤキク菊科 カイザイク同

上 エゾキク同上 コウワウサウ菊科 キ

ンセンクワ同上 ヒナギク菊科 キンギヨサ

ウ玄參科 ビジヨザクラ馬鞭草科 ホウセン

クワ鳳仙花科 オシロイバナ紫茉莉科 ベン

ケイサウ景天科 セイヤウアフヒ穉牛兒科

マツバギク蕃杏科 マツバボタン馬齒耳科

ユキノシタ虎耳草科 ノウゼンハレン金蓮花科

ゼニアフヒ錦葵科 クサケフチクタク花葱科

ツハブキ菊科 フウセンカヅラ無患子科 セ

ンニチサウ苧科 ハゲイトウ苧科 ルカウサ

ウ旋花科 サンシキスミレ董葉菜科 カンナ

曇華科 ショウブ天南星科 セキセウ同上

ムラザギツユクサ鴨跖草科 スキセン石蒜科

ハラシ百合科 ヒナグシ罌粟科 アメリカナ

デシコ石竹科 ニハセキセウ鳶尾科 カキツ

バタ同上 ヒエンサウ毛茛科 シヤクヤク同

○雜樹木區

ヤマナラシ柳楊科 ノイバラ薔薇科 モチノ

キ冬青科

○苗床園

秋季に於て二十種の草本植物の播種を爲す。

階段區

目下五十種の盆栽的樹木及觀賞的草本類を鉢植とし

て陳列す。

以上記する中×符あるは教材植物で他の區内に配

植したものである。

●兒童訓練の實際

津久井郡牧野小學校内 早川 生

余は本年四月より尋五と尋二の女との複式學級を擔
任する事になつた。僕は毎學年、始業式の日、第一に
することは兒童と約束するのである。六ヶ敷く云へば
訓示するのである。本年も例に依つて、四月一日に大
體次の如き訓諭をなした。

- 一、よく先生の命令を遵守すること。
- 二、先生に世話を焼かせぬこと。

三、互に教へ合ふこと。

もせよ、訓戒せらるゝ場合にもせよ、元氣あるべし。過つて改むるに憚ること勿れと云ふことあり。因循なる行爲は力めてなすべからざることを。

四、元氣よく仕事をすること。

五、かゝる合組にては、殊に無駄言して他人の邪魔となる如き事をなすべからず。互に注意して戒むべし若し守り難くんば室外に出て話しすべきこと。然らざる時は叱責、訓戒を當人又は全體が受くるに至るべきものと考ふべし。

これは大綱であつて、説明し會得せしむべく次の如きことを以つてした。曰く、

1、先生の命令には服従すべしと雖も時には、先生の命令にも無理な事があるかも知れぬ。かゝる時には爲し難き旨を訴へて再考を要求すべし。されど力めて無理は言はぬ考へてあるから、常に従順なる心性を以つて服すべきこと。

以上は主として尋五に對して訓示せるものである。當校では校舎不完全なるを以つて、教室の都合上、かゝる學級の編制をなし、年々擔任がかはり持上り教授の如きは殆んどなすこと能はず。故に訓練も一箇年に止まり其効果顯はれんとする頃には他人の手に移りて訓練せらるゝ有様である。何として全き訓育をなし得らるゝものぞ。併し余は大なる期待と決心とを以つて

2、先生は成るべく君等の行爲に對して注意、訓戒をせざるに力むるより各自慎みて反省し、又互に注意し合ひて、學習すべし。度を過ごして他の邪魔となる如きこと、又は怠る如きことあれば嚴重なる叱責を受くるものと考ふべきこと。

訓育に力を注ぎつゝある。右の如き訓諭をなして、これを實行するに時としては、随分批難を受けはせぬかと思はるゝまで強硬に行ふのである。毎年一度位は、一日や二日は教授よりも力を用ひて極力彼等の覺醒を促すのである。かくして次第に訓練の効現れ來り三學期には殆んど全く世話を要せざるに到る。然れ共前に

3、合級なれば一方に行きて教ふる間は一方には閑なり。されどこの間を空費すべからず。不解の事を探究し、書取りし、朗讀するなど、隣生と互に教へ合ひて學習すべし。尋ねられて教へざる如きことあるべからず。又成るべくは後向にならぬこと。

4、總べて、學問上の事項の質問にもせよ、答へに

たら容易に止まぬ。父母は持餘して降參してしまふから増長する。遂には教師に對してもさう云ふ振舞をする。仍つてこれを真心より入れ替へてやらうと思ふてゐたのだ。

も述べし如き事情なれば、方針に異なる所あるものか次の學年には再び元に歸るやと思はるゝに至ることあり。之れ即ち始終一貫するを要する所以であらう。最早余は斯くの如くして實行すること滿二ヶ年、その間に仲々面白いことがある。本年も一つあつた仍つて茲に其の實際を記して、諸彦の御高評を希はんとするのである。

扱て五月二十五日は綴方の時間中の事である。文題を課し、各自の思想を整理して、各自起稿せしめ草稿帳に筆記して呈出すべく命じたるに彼れ志村のみは殆んど記述せず、剩さへペン軸を切り刻んで散乱し居るを以つて、嚴に叱責し、又、二三度注意し放任し置きたり。かくして一時限を過したるに何れも纏り居らざるを以て明日の綴方の時間に纏め得る様注意して、止めたり。

本來この尋五の兒童中には數人の奇抜なる性格を有する者がある。或は剛直、或はヒネクレ根性、或は慰み半分ヒネクレる性を有するものである。僕も亦、奇人かも知れぬ。本年は受持を定める時などは、持上りをして尋六と尋二の男の合級を持ち得るのにこれを人手に移して、奇抜を兒童のある尋五を持つたのである。が來年は出來得べくんば持ち上り度いものである。されば奇抜な兒童を相手に種々の方法を講じて、克ち行くのを樂しみにして居る。所が、五月二十五日に至つて、例のヒネクレ兒が本性を現はして來た。相手は數人であつたが、その中の一人は志村某と云ふ極めて癩癪持なヒネクレ兒であつた。

この兒童は仲々のヒネクレて時に父母も持餘すことがある。腦力は中以上である。であるからヒネクレ始め

さて、翌二十六日には最後の時間に綴方あり。前日の文を纏めて呈出すべく命じ尋二の教授に力を用ひ、尋五の方は殆んど放任し、一二度注意を與へたるのみ。一時限を過したるに大部分は呈出したるも數名は未だ纏らず。そも劣等なる兒童にて纏らぬなら兎も角多くは中等又は優等に近き兒童なりしを以て、嚴重に命じて、作り上げ歸るべく注意し、三十分程を経たれども如何な出來ず。仍つて一々如何にして作れざりしかを質して、訓戒を與へ後掃除を命じたるに、孰れも不平

にて皆其儘に歸れり翌二十七日第一時修身なるを幸ひ強硬に彼等の反省を促した。今其の經過の大要を左に述べん。

教師、君等は學校へ何の爲めに來るか。

甲生、勉強しに來ます。

乙生、學問して立派な人になる爲めに來ます。

丙生、字を習ひに參ります。

教師、丙君の言ふた様に字さへ習へばよいのですか。

それとも、甲君の言ふ様に勉強しさへすればよいのですか。

乙生、修身のことも習ひます。

教師、それでは今までに君等は修身で、父母其他長上の言つけを受けたら如何にすべきであるかを教へられませんか。

丁生、父母や目上の人の命令は、よく守ります。この兒童も時々父母の命を守らず、遊んでばかり居ることがあるのである。

教師、丁君！君はその通りやつて居ますか。

丁生、……、下向きて無言なり。

教師、知つて居ても實行しないならば、知らないも同じことです。志村は如何します。

志村、私は仕事を命じられてもいたしません。教師、君は今までに、どうしたらよいかと云ふことを教へられませんでしたか。

志村、知りません。……語を發せず。

教師、誰かよく分るようにならぬか。

乙生、父母や先生の命令は受けたら、直ぐにやります。

教師、志村！分つたらう。云ふてごらん。

志村、ハイ。お父さんやお母さんや先生から用を云ひつけられたら直ぐに、その様にしなければなりません。

教師、君等は學校へ勉強しに來ると云ふが、勉強したら誰の益になるのです。

一同、私達のためです。

教師、それを知つて居て、綴方を作らずに遊んでしまつた人が五六人ありましたが何故ですか。

私の命じたことが無理でしたか。

生徒、……呈出しない生徒は何れも下を向いて居る呈出した生徒は、小さな聲で、無理ではありません。など云ふて、迷惑さうな面持である。

志村は平然として、陰でコン／＼いたづらして居る。他は悔悟したらしい顔付である。

教師、其の人達はこれから必ず怠らずに勉強しなければいけません。

マア、それはさうとして置いて、今朝はいつもになくこの教室は清潔で、机も整頓して居て、皆清々して居るでせう。よく見てごらん。塵一つないでせう。

一同、掃除してないから汚ない。……机がまがつて居ます。……塵だらけです。……

教師、君等の家では、座敷へ棒切や、ごみや、ほこりが散亂して、きたなかつたらどうします。

一同、掃除します。

教師、自分の家は掃除しますが、自分達の勉強する、教室はしないですかそれとも君等殊に昨日命ぜられた人には出來ないのですか。

丙生、出來ます。……戻つて爲さうにした兒童である。

教師、出來るのに何故せずに歸つたのです。

丙生、皆が歸つたからやめました。

教師、他の人はどんな考へでした。それ共私の命じたのが無理でありましたか。甲君は何と考へますかネ。

甲生、皆順番に今までやつて來たのですから、無理ではないのです。

教師、それに、時間が後れたからですか。それにしても黙つて歸るのはいけませんと思ふが如何です。況して、昨日は遅くなつた時よりも、十分許り後れた丈でしたヨ。

一同は一時間も遅かつたと思ふたらしい。實際は、少し早く止めて、呈出者を歸したから、さう云ふ感があるのだらう。

教師、私は無理は云はなかつた考へだ。まして、此頃は養蠶で忙しい時であるからと思つて、早く止めて命じたのである。十分位遅くなつたのに、一時間も後れた積りであつたか知らんが、君等は早く歸宅して手傳ひをしたかどうだ。道草を喰つて遊んで居はせぬか。強つて掃除して欲しくもない。早く歸つてよく手傳ひをしたなら、宜しい。多くはさうでないと思ふ。五年にもなつて、それが分らないことはなからう。僕等の命令を守ることが出來ぬものには、父母の命令も守れない。諸君の家では皆、君等は學校へ行つて、よく勉強して來ると思ふてゐるのに、君

等は遊んで居るのである。父母兄弟に申譯があると思つて居ますか。……

彼等の顔色を見渡すに、皆悪かつたと云ふ態度である仍つて、必らず綴方のみならず、以後は命令を守り得るものは起立すべしと云ふに、皆、起立した。けれ共志村は一人立たぬ。仍つて尙ほ語を繼ぎて、

教師、未だ守り得られぬ心持のあるのは遠慮はいらぬから起立せぬでもよい。よく考へて起立しないと後に守れなくなると困る。志村は守れないのだネ。……一同坐りなさい。

志村、私には未だ守れません。
教師、五十何人と云ふ人達は皆守り得ると云ふのに、

志村は未だ守れない。満四年と凡そ二ヶ月の間勉強して、未だ分らぬ。未だ守れぬと云ふならもう教へる必要はない。さういふ悪い子供は、學校へ來ても益はないから、直ちにお道具を持つて、歸りなさい。さういふものは他の方法に依つて、教へるより仕方がない。よく父母に話して、私が無理か、自分が悪いか聞いてごらん。云ふのがいやなら手紙を書いてやらう。又後から私が行つて話してやらう。さあ、早くお歸り

なさい。
嚴重に宣告し、荷物を布呂敷に包みて、歸らしむ。歸り兼ねて廊下まで出されて立つて居る。他生には又、訓諭して曰く、

志村の如きは、世の中の屑である。あゝ云ふ者は後には、多くの人の世話になるのです。人は伶俐で學問さへ出來ればよいのではない。智識はなくとも行ひの立派な、心の正しい人になるのが第一です。これがよく分つて居て、實行出來る人が全くの勉強した人なのである。君等は今日からは正しい心を持つて一生懸命に勉強したら、立派な人になることが出来る。堅く實行し得る事を盟つて置きます。忘れてはいけません。過つて改むるに憚ること勿れと云ふのはこのことなのです。

さて、斯くの如く一般兒童に將來を訓諭して職員室へ來た時は最早、一時間半も經つて居た。少時職員室で待つて居ると、志村は泣く／＼入り來つて敬禮した。注目し居れば、涙を拭ひ／＼語り出しぬ。曰く、
先生……今までは私が悪うございました。……
……これから家へ歸ると、家へ寄せられません。

……これからは必らず先生の教へを守りますから堪忍して下さい。……
家へ歸つては、今までの様でなく……お父さんやお母さんの言ひつけを守つて働きますから、……
……どうぞ堪忍して下さい。……
と、語も切れ／＼に只管謝詞を述べる。

教師、けれ共、そんなにあやまることはない。先生があんなに言ふたのが悪いかも知れんよ。無暗にあやまらないで、まあ、今一度考へて見玉へ。
志村、いゝえ、私が全く悪かつたのです。……どうぞ許して下さい。……

と云ふて、坐り込んでしまふ様に平身低頭して謝す。居合せたる校長始め他の教員も齊しく喜んだ。僕もこんな事は初めてである。
教師、それでは必らず守ることが出來ますね。
志村、ハイ……
教師、君はそれでこそ立派な人だ。他の兒童より立派な人になれるだらう。過つて改むるに憚ること勿れ、と云ふ諺があるが、分つて居るだらう。君は今までは過つて居たのだ。それを今日、只今から改めるのだから、實にえらいものだ。是

から一生懸命に勉強して今までの分も取返しなさい。さうして、來年の三月には優等で六年に進級することが出来る様にしなさい。……
何れその内に君の父母にも話しますから。さうしたら大層喜ばれるだらう。安心なさるだらう。斯くして、一段落とした。それ以來真面目にして事に従順なる様になつた。併し一時に變化することは期し難い。時々刺戟する様にしたら、有望だらうと期待して居る。

總べて、訓練は彼等に對するに自信と勇氣とを以て、臨み、言ひ出したが最後、彼等の心のドン底までぐり込まなければ駄目である、然して、根氣負けせぬことである。常に彼の態度にして、元に戻る如き時は、刺戟して、悔悟の時の心を喚起し行かねば効果を全くすることは出來ぬ。それも亦兒童の心身の發達程度に依りてなすべきことは言を要せぬのである。
而して、硬教育なるべしと雖も、常に極めて些少の事にもガミ／＼と手強くすることは大に考ふべきことである。訓育は三つを賞して、二つを叱るてふ程度にし

て行かねばなるまいと思ふ。
余は近頃種々の思まはしい事の續出するのは明治代の教育が、智識の吸収に急にして訓育を輕視したる結果であると思ふ。仍つて近頃に至り、人格主義の教育なる思潮が唱導せらるゝではないかと思ふ。淺學非才幸に御教示を乞ふ。

●小學校に於ける圖畫 教授に就て

神奈川縣中等學校圖畫科教員協議會

今回神奈川縣師範學校に於ける中等學校圖畫科教員協議會の開催を期とし各其校に於ける生徒の指導に資せんが爲め、其等生徒が曾て學びたる小學校に於ける本科教授の状況を推察し其概要を打合せたるが、本科の成績は年と共に著しく進歩發達の跡を見るとは皆一致する所の意見にして、是れ實に國家教育の爲め慶賀すべきことなりとす。然れ雖本科成績の如何は施いて國運の發展に關すること甚大なるものあれば、向後一層相互に協力して、斯道の向上を期せんこと望蜀の感

に堪えざるなり。茲に稍一般に涉りて其弊と認めらるゝもの數項を列擧して、以て相互の參考に資せんと思ふ。

- 一、基本形体の教授不充分なること。
某々中學校に於て、其新入學生に對し基本形態の中最も簡易なる圓柱或は立方体等を寫生せしめたるに、正確に描き得しもの極めて稀なり。
- 二、寫生教材の選擇排列に一層の注意を煩されたりと、實際生活と密接の關係あるもの又は基本形体或は之に近きもの等を顧みずして却て草花風景等にのみ偏せらるゝことなきか。
- 三、一般に幾何畫的描法の力に乏し。
其中等學校に於て、其の新入學生に對し圓、正三角形、正方形、正五角形の描寫を課したるに、時間内に全部完成せるもの一人もなく、しかも圓を除くの外は完全に近きものなかりき。
- 四、寫生畫又は臨畫をなすに當り定規、コンパス、尺度等の補助機械を乱用するの弊多きこと。
某々中等學校に於て、其の新入學生に對し人參と梨實との臨畫を試みに課したるに、人參の輪廓をとるに定規を用ゐ、梨實の輪廓には「コン

五、「ケシゴム」を亂用するの弊甚だしきこと。
少し描きては消し、描きては消す習慣ありて、未だ何等の形も描かざる中に、早や紙面破損して紙を取り換へるもの往々あり。

六、寫生又は臨畫をなすに當り、透き寫しの法を用ゐて書き直しをなす弊多きこと。
之れ考按畫の描法と自在畫の描法と自在畫の描法とを混同して教授しつゝあるにはあらざるか。

七、寫生及臨畫の際、輪廓描法の順序を知らざるもの多し。
この弊は女子に於て一層甚だしきが如し。

八、作業の際姿勢の不良なる者少からざること。
九、展覽會の方法に意を用ふべきこと。

展覽會は本科成績の促進上必要なるものなれども、現今各所に行はれつゝあるものを觀るに、往々目前の虚榮に囚はれ、其の根本的を誤り、弊害に陥りたるものあるが如し。一般に眞面目なる研究の結果を發表するに勉むべきなり。抑も本科は從來初等教育に於て否中等教育に於ても

輕視せられ、殊に初等教育に在つては之を初學年より課せずして、中途學年より授けしものなりしが、近年に至りて必須科として尋常小學第三學年より之を課し又初學年より是が教授を始め得る事となれり。顧みれば輒近泰西の教育主義は、教育上の價值并に國家經濟上より技能中心主義を稱ふるに至れるが、之を我が國情に徴しても、斯道發展の爲大に研究を要する次第なれば直接普通教育の任に當られつゝあるの士は願はくば出來得る限り吾人に其の材料を供せられ、共に俱に協力一致して斯道の爲に計られんことを望む。(十月四日)



●漢詩

盛典紀事

大森午之介

庶績咸熙我帝州。二百餘載聖恩稠。仰瞻日月光華爛。西幸舊都登極秋。

午 雲

萬歳は古き神代に響くらん

奉賀大典

矢後 駒 吉

雞人報曉啓天關。萬國衣冠映錦旛。此日 玉皇登紫極
祥雲瑞氣滿乾坤。

本町小學校 諸石傳之助

大典恭賦

金甌無缺古神州。萬歳聲和五大洲。今上聖明登極日。
旭旗光射亘全球。

率土頌和大典歌。旭旗高閃野人家。恩光豈啻七千萬。
列國來朝玉帛多。

扶桑到處發祥烟。一系連綿億萬年。各國衣冠參大典。
盛儀曠古八紘傳。

聖恩蕩々山河固。帝德巍々日月懸。寶祚無窮何以祝。
南山獻壽九如篇。

松坡評。首々穩妥可誦。

大御代に生まれし身のうれしさよ

又と代になきのりにあふとは

典といふ典にまたなきおほみのり

外國人もえりやたゝさん

和歌七首

相 州 東 嶺 生

をさなごはげにいとけなし我が語る

一つばなしにほゝるみにけり

自らを省みにけり神の子の

いつはらぬ言をふと耳にして

をさなごの書讀む聲を聞えける

學の庭の窓のうちより

快き朝風浴びて庭の面に

ますらを列び体操をする

ふと見れば鎮守の森はこの秋の

寂しき中に静かなりけり

涯もなき青海原に帆をあげて

街ふ人こそうたてかりけれ

子安坂秋茄子満てる二籠を

かつぎてのぼる雨の朝かな

文 苑

同 人

村社日

鉦鼓笛聲喧暮天。駒形神社瑞烟邊。由來十月度修祭。
十雨五風還奕年。

足柄下郡 奥平 桂 堂

奉賀 御即位式

紫宸殿上瑞雲連。仙客冲天旭日鮮。百官威儀堂々昇。
四海齊歌萬々年。

和歌

足柄下郡 奥平 桂 堂

奉祝御大典の五字を頭における祝の歌

奉る我敷島の言の葉を

祝ひまつらん心ともかな

祝ひまつる我諸人の諸聲に

山もゆるかん海もあふれん

御位にのほりまします我君の

御代は幾千代榮えゆくらむ

俳句

○十月小吟

塵 外 子

秋晴や彫像になる大理石

客去りし床屋の晝や歸り花

髪結はぬ妻に夕陽や粟の秋

移り來て鵬に戸を押す山家哉

朝富士やコスモス高き咲き所

大利根の白帆寂びけり雨の雁

○秋の句集より

北 島 銀 扇

奉祝と菊に名札を結びけり

足とめて見下す谷の紅葉哉

天覽の譽名とせる黄菊哉

虚飾する心に似たり秋の山

○菊

小 林 緑

六合を照す御徳や菊の花

畏しや鹵簿過ぎ給ふ菊の村

菊薫る園生や四萬三千里

溝口桂巖先生

矢後駒吉

(上)

溝口桂巖先生、諱は恒通稱清左衛門、字は景弦、津久井郡千木良の人なり。其の居相模川の上流桂川に瀕するを以て自ら桂巖と號し、其の室を桂巖居と稱せり。先生學常師あるにあらず、然れども其の豪農にして篤學の士たるを以て、甲州路を往來するの學者は、其の桂巖居を問はざるものなく、先生も亦よく之れを厚遇して詩酒徵逐、少きは二三年の久しき、逗留するものありしといふ。即ち友にして師、師にして友、先生は此の間に於て大に學識を養ひ得たるなり。余此頃先生の藏書にして自筆の書入ある枕山詩抄一本を得たり。其の藏書印の文に、相中築井縣千木良村老農溝口圖書證の十六字を刻す。千木良村老農の六字最も先生の人格の崇高なるを見るに足る。先生は自ら詩人を以て居らず。詩は耕農の餘事のみ、其の本務は老農たるなり。曾て水戸の學者綿引東海氏其の居を訪ひ記して曰く。吾れ嘗て峽中に遊び、相州千樹山下を過ぎ、臨溪の家、四面石壁、結構爽塏なるを見る、丘壑の豊、烟霞の適、丹桂を蔭にし白茅を藉き、古木怪岩、屋を繞りて森列せり。吾れ太だ異みて之を士人に問ふ、則ち吾が友溝

口景弦君の桂巖居なり。と、先生の居は實に儼然たる一諸侯の觀ありしなり。

先生學に常師なきが如く、詩に常法なし。唐宋に出入して自ら一家をなす、而して長篇最も好し。チャリネの曲馬を觀ては觀跑馬歌あり。曰く、
跑馬遠自伊國來。天幕四垂夜場開、中揭流燈明似晝。
觀者如堵與雄哉。大象猛虎又獅子。柔馴養飼鐵檻裏。
進退有度寸不差。皆忘威力甘鞭撻。騎馬並轡入場躍。
男女鞍頭乍戲謔。節奏能傳鼓笛聲。疾驅徐步多所作。
四蹄離地入翔空。双馬能受一人脚。穿穴超墻飛又騎。
絕技危於度縲索。猿劇貓舞是其倫。訓授至竟如陶甄。
智惠相移君看取。可無惡漢化善人。

雄渾勁健、趙歐北の所謂、天馬空を行きて、羈勒すべからざるの概あるなり。大沼枕山此の詩を評して、歐北以後百年を経て此の作ありと推賞せり。而して又四蹄の二句は歐北にあらざれば之を作る能はずと斷言せり。



教育資料

◎正直蜜柑

神師第二附屬

公

堂

うららかな秋の日は、赤く箱根山に夕映て、まひるは左程でもないこの二宮のステーションも何となく忙しさを人々が行き來して居る。

ムク／＼と黒煙をはいて居た汽車の今し發車しやうとしたとき、車夫をいそがしてこれにやう／＼かけつけた一人の紳士があつた。偉大な體格に半白の長鬚、口もとのキリツトしまつた見るからに迫らぬ風姿は何れの名ある人なんだらう！

汽車は汽笛一聲長いこだまを後に殘して東に此の疑問の紳士を乗せて走つて行つてしまつた。

しよざいなささうな驛夫のあくびを後に客待ちの車夫のどや／＼と歸つてしまつたあとは田舎驛の常として、又元の静かさに返つてひつそりかんとして居る。夜に入ると此の疑問の紳士を乗せて來た若い車夫があつた。わたくし再びこゝに現れて、しきりと先の御客の住

所氏名を驛の人々に尋ね廻つて居たが誰も其の名さへ知る人はなかつた。

疑問の紳士とは誰れ？之れを尋ぬる車夫は何？

さても如何なるえにしがあるだらう？

二宮は驛のはづれ形だかりの小さな家の片隅にはこれが吾が活計の心棒とばかり人力車は置かれてある。これがそも／＼かの車夫内山芳雄の家である。

かつては己れの拾ひ親と小田原に漁業に従事した事もあつた。

日露戰役には格條溝附近の戰爭に参加せしを始めとして金州、松樹山、奉天の血なまぐさき戰鬪に身を粉にして戰つた事もあつた。

戰後功により勳八等白色桐葉章並びに金百圓を賜つて彼が胸間に偉大な軍功を語る風手を仰ぐ事もしば／＼ある。

「お父ちゃんか歸つて來た」

家では四人の女の子が父の歸りをかやうに待つて居るのか常である。此の日も例の通り一日の勞苦を終へて吾家に歸つた。ドンブリからは今日の收入を數へるべくザラ／＼と金を出して數へたものゝどうしても甘錢多い。

「あゝそうだ、あのお客様にお土産を買ふ爲めお金をあづかつたが、そのおつりを渡すのを汽車が出さうだつたので忘れてしまつたんだ。

それだ／＼それに違ひない。」

かう氣が附くと彼は落附いては居られなかつた。

直様右の様にステーションに駆けつけたのであつたが

知る人もなくしやう事なしに其の夜は歸つたまゝのこ

のまゝ止む彼れてはなかつた、たとへ今は貧しい車夫

はして居ながらも「ごまかしてとつた」と言はれては

此胸がいえぬ。疑問の人を乗せて行つた園藝場へも行

つて尋ねたが縣會議員の方とばかりて名は知れずこま

り果てた末、元縣會に立つたと云ふ一色の井上仁三郎

といふ人にまで出かけて尋ねた。

「さう、身體がでつぷりと太つて、頭がはげて……

鬚の多い……」

「それなら井上さんに違ひない」

「お住居はどこらでせう」

「鎌倉郡腰越だよ」

数日の奔走に漸く宿望達せられて、いそ／＼と吾家に

歸つた彼は其の夜ほの暗いあかりの下に頭を折々かた

むけては何事かしたためるのであつた。翌日手紙は飛

んで腰越のとある門に入つた。

大きな長屋門をくぐると庭一ぱいの多行松が吾物顔に

はびこつたあなた、主家には古い表札に「井上保次郎」

と書いてある、これぞ出てゝは縣會に刷進派の棟梁と

て知られ入りては村の長として名聲噴々たるの人の

住居である。

てつぷりと太つた白鬚の主人は今し受取つた封書を不

審さうに眺めて居る。

「腰越津村、井上保次様」

裏をかへせば

「二宮ノ車夫内山芳雄」

二宮の車夫、内山芳雄、それは主人の耳には異様の響

であつた。

夢かはた狂人か、主人は分明と先日の子車夫を廻想しな

がらしかも語らぬ。唯凝視する幾分時。

ガランとした大家には音もなく外には電車が折々けた

ましくキーツと軋つて鎌倉の方へ皆な行く。

拜啓陳者先日二宮ニ下車ノ節私ノ車ニ御乗リ被下レ

其時金五拾錢ニテ三十錢ノあまさけヲカヒ二十錢ヲ

差上可クノ處時間ニマギレ差上ズ何供申別無ク平ニ

御用捨下被度候早速送金致ス可ノ處所名別ラズ今日

吾妻村ノ一色ニテ元縣會ニ立チシ人ニテ井上仁三郎

殿ニ伺ヒ致シ用々ノ事ニテ相別リ候ヘバ切手ニテ送

リ候ヘバ清取被下度候也 早々不一

十二月六日

井上保次殿

用々の事にて相別りとある。よくもそれ程のめんどう

な事をしたもの哉。バラ／＼と落ちた廿錢の切手を拾

ひ上げて言ひ様のない笑を彼はもらした。

「おばあさん！この間二の宮へ行つた歸り甘酒をおは

あさんに土産に買つて來ましたがそのとき車夫に五

十錢もたしてやつたんですが三十錢買つて二十錢の

おつりを出すのを忘れた。それなんです。感心な車

夫ではありませんか」

二宮は甘酒の名物と聞いて家に待ち給ふ七十にあまる

母上に買はうとされた事からこんな美しい話が起つた

のであつた。

「私はおまへの心掛に感心した。家に巨萬の富をつみ

身は高位高官にありながら心に錦を着ぬ者の多い世

の中にさりとはあつばれなものだ。

たとへ身はいやしい車夫なればとて心に錦を着さへ

すれば偉大なる成功者だ。

道徳の日々にすたれ行く此の頃お前の如き立派な人

を見た事をよろこぶ。

これは僅少ながら自分の寸志だからおさめてくれ」

と云ふ意味の手紙に金一圓を入れて二宮の車夫内山芳

雄のもとに出された。

これを受とつた内山芳雄は如何に驚いたらう？

鄭重なる禮手紙のみか返却した五倍の金は其心掛の殊

勝さにと云つてとゞけられたのではないか。

「どうしたらいいだらう？」

「返すのも變ですから何か御禮をしたらいいでせう」

「蜜柑を送らう蜜柑を」

「それがいいでせう」

小さな彼が住居にはこんな會話が一家の間に交された

に違ひない、間もなく井上氏の家に蜜柑箱のとゞいた

のを見た。

行く者は此の如し晝夜を捨てず。まこと流れ／＼て絶

えまなく流れ行く時の流れに關守はない。

昨は秋風心地よかりしも已に十二月中央。毎日々々灰

色の雲低う飛んで濁れる海を壓ゆれば海面を吹き來る

風はもう切る様に寒い。

村長の家では一家火鉢を擁して車夫のうわさに餘念がない。やがて送りくれた蜜柑がとり出された。

「皆なこの車夫の様に正直にならなければならぬ。男も女も大人も子供も。」

正直の頭に神宿ると言ふではないか。皆もこの車夫の様になる様この正直蜜柑を食つたかい。」

かくて一つ宛家中の者に蜜柑は渡された。そればかりではない。吾學校の職員にも教生にも一つ宛正直蜜柑を送つて下すつたのであつた。

あゝ古稀の考母を思ふ白鬚の孝子と、時今稀に見る正直車夫によつて作り出されたこの美しき蜜柑はけがれ多い吾等の心底をどの位洗ひ清めた事だらうか。

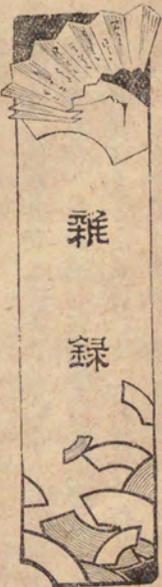
「誰も富者になれ、偉人になれと云ふ束縛はない否賢者になれといふ筈もない。然し人は各々皆正直になれとの義務がある。」

とかの西哲ベンチャミン、ラッドヤードは其の著に言ふて居るではないか。

正直になるべき義務がある。おゝ、そうだ正直！正直！眞に生き甲斐ある人生の此萌芽は人皆に潜んで居るのではあるまいか。

(事は大正三年十一月末の出来事である今や正に一

年ゆかし／＼正直蜜柑、編輯子)



◎爲朝の琉球渡來說に就て

那覇天妃尋常高等小學校長 石野 瑛

爲朝が保元の乱に破れて伊豆の大島に流されてから後のことは今尙議論紛々て闡明されて居ない。

或る者は三十二歳を一期として大島に自害したと言ひ或る者は遠く西南に航して琉球に渡つたと言ひ、更に甚だしきは鬼界が島や石垣島やその他の島々にも行つたと云つて居る。然してその琉球に渡つたといふのも一は伊豆の大島よりしたものと、一はその九州に在るの日に渡つたのだらうと言ふものがある。

今試みに爲朝の渡球を認めたものにはどんな書物があるかを調べて見ると。琉球の正史たる中山正鑑、中山世譜、球陽の三書を始めとして舊記や仕置書があるし、本土の人の筆になつたものには新井白石の南島史

水戸で編纂された大日本史、それから小説ではあるが馬琴の弓張月などで、支那人のものしたものは中山傳信録、元史類篇、琉球國史略などである。

次にその年代を考へて見れば、琉球史の記録する所に従ふと爲朝の渡來したのは我が朝の永萬元で、大里按司の妹を娶り舜天を生んだのがその翌年の仁安元年で、その翌々仁安三年には妻子を残して牧港から船出して歸國の途に上つたのである。爲朝が大島で自殺したといふのは保元物語に従ふと嘉應二年であるから琉球から歸つて尙二年ほど生存して居たことになる。尙他の説には承安三年といひ、また安元二年といふが、前者にすれば五年計り、後者にすれば八年ほど生き永らへて居たことになるので、爲朝が渡球したことは少しも矛盾しないことになる。

これはその當時日本本土の歴史を念頭に置いて編んだとは思はれぬ、この琉球史の記録とうまく符合するといふのは大に留意すべき点である。この点からいふと一説の爲朝が九州に在つた日に來たといふ説は年代が合はぬことになる。

その他前に擧げた著書の多くはこの琉球正史たる世鑑に基づいたものであらう。して見るとこの世鑑は琉球

史中のオーソリティーと言はねばならぬ。と共にこの中山世鑑は何時何人の著で如何なる材料によつたかを研究せねばなるまい。

世鑑は今から二百六十五年前即ち慶安三年に羽地按司(職名)向象賢が尙質王の命を奉じて編んだもので、六冊より成り凡て和文を以て書いた琉球の古事記ともいふべき琉球隨一の史料である。

而して如何なる材料によつたかは惜しむべし。凡そ五百年前、察度王の貢明以後政略上の必要と支那思想の輸入とより、日本本土との交渉に關する事蹟はすべてこれを破壊し、または取り除くことを考へた結果。さなきだに茫々七百年、タイムといふ大なる消磨力の加はるありて、多く漂滅に歸したのである。

あゝされど我が琉球には他地方よりも一層濃厚な祖先崇拜の觀念がある。この貴き觀念に庇護されて爲朝が來たといふことだけは、やゝこしい政略と七百年のタイムの外に超然として傳はつて來たのである。

次にこの遺蹟を調べて見る。余は久しい前から琉球沖繩縣などいふ文字を見るたびに、また聞く度に、美しい雲の浮んで居る大空の下に、まだ見たことのない緑濃い熱帯的な樹々や、艶かな不斷の花が咲き匂ふ島

の中に、スガ／＼しい芭蕉布や丈夫さうな飛白て作つた素朴な服装した人々がゆつたり迫らぬ態度で歩いて居る様や、碧瑠璃の海原に南國的な西洋上古史の挿畫にでもありさうな奇妙な船が走つて居ると言つた様な景色や澱粉を澤山含んで居る栗の様な甘藷や、砂糖やそれからたゞつて居る飯匙倩といふ様な想像を描くと屹度それに附け加へて、鎧、大刀、大弓、嚴めし爲朝の武者振ひを思つた。

ところが不思議の縁があつてその土地を踏むことになつた余は、爲朝や舜天の事蹟を出来るだけ調べて見やうと考へると同時にこのホリイテールな島の美を心ゆくまで見やうと喜んで來たのであつた。

來て見たら果して島はその土地もその人情も余の思つた通りであつた。あゝされど爲朝や舜天に關する事蹟は前に述べた様な理由で、大凡湮滅に歸して居たには失望せざるを得なかつた。

爲朝の遺蹟と傳へられるものは小琉球の稱がある大島と、沖繩本島内の運天、浦添、和解武、牧港などであるが、前に擧げた鬼界が島や石垣島やその他の島々まで行つたといふことはもとより信ずることは出來ぬが、しかし南北三百餘里の島々の果から果まで、爲朝

の名の行き渡つて居るその感化力の偉大なことは實に驚くべきである。

爲朝が奄美大島に居たといふことは、名瀨の大和城に三年間居たといふ口碑が傳はつて居る。

爲朝が本島に居つた時一度加計呂麻島の芝といふ所に行つたことがあるやうである。即ち芝に爲朝を謠つた次のやうな子守歌がある。

大和城の御曹子や

左の右きや あへあきぬ

平安ねや 石ぬきや 右ちへ あきゆぬ

子供さやあ城の御曹子のいもぬな

この歌の意味は概略斯うである。

大和城に居る爲朝は、右の手は左の手よりも長く弓術の達人である。そして其力も強く、平安朝には無雙の強い人である。そら子供らよ。泣けば爲朝が來るよ。(伊波文學士解)

爲朝は大島で女を娶つて一男を生み、その子孫は今に榮えてゐるとのことである。

それから爲朝は更に南進を企て、遙々わが琉球さして來たのである。時に風波強く流石の勇士も大波怒濤の中に木の葉に弄はれて、たゞ／＼運を天に任せて漸く

漂着したのが今歸仁村の運天港であつた。

彼のおもちさうしにある爲朝の運天港上陸を歌つたおもろは次の様である。

ぜりかくの のろの あけしの のろの
あまぐれ おろちへ よろいぬらちへ
うんでん つけて こみなと つけて
かつちう だけ さがる あまぐれ おろちへ
よろいぬらちへ やまとの いくさ
やしろの いくさ

其歌の意味は大体かうである

勢理客の祝が あけしの祝が 禱をさへげて
雨雲を呼び下し として武士の鎧を濡らした。

その武士が今しも運天港の小港に着いた時
祝は嘉津宇嶽にかゝつた雨雲を呼び下して

武士の鎧を濡らした。この武人には大和の軍勢である。山城の軍勢である

祝とは庶民の婦女の神事に關するものをいふ。
嘉津宇嶽は國頭郡にあつて高さ千五百尺、縣内屈指の高峯である。

この歌は或る一説には薩摩の軍勢が來た時の歌ではあるまいかといふものもあるが、兩者の天候などから考

へても、薩摩軍が來た時には晴天であつたのであるが爲朝の來た時は暴風雨で恰度口碑と一致して居るし、喜安日記などを見ても、これは薩摩軍上陸のみのものではなさそうである。(伊波文學士調參考)

この歌で見ると運天といふ名も、爲朝が渡來しない前からあつたといふことがわかる。しかし一説には爲朝が暴風雨の中で運を天に任すと云つて上陸したから、その名が起つたとも傳へられて居る。

かくて漸次南進して南山に來り、城の北方のすぐ下の小丘和解武で大里按司の妹と婚し、そして一子舜天を生んだのであつた。かくて家族同伴して旅立たうとしたが、沖繩古來の習慣として、女の船出は海神の怒りにふれるとのことで、爲朝は再會を約し妻子を残して牧港から纜を解いた。牧はもと待ちの意より起る。

彼等母子が黒潮の荒き白浪の打ち寄する、琉球西海の濱邊に、綠なす黒髪を潮風に揺がせつゝ、麒麟兒を抱いて蓋世の英雄を待ち詫びたる様の如何にあはれにもまたけなげてあつたか。

これを要するに馬琴かその著弓張月に苦心して書き表はした様に、爲朝の琉球遠征は我が皇祖及び大孫氏(支流の祖先)の神靈の神意に依るので、即ち換言すれ

◎實業科教員夏季講習會

講義の一節

足柄上郡南足柄小學校 遠藤生

ば千餘年前に別れた本流支流兩民族を再會せしむる爲神の與へた楔子であるので爲朝は琉球を討つたのではなくて、琉球の仇敵を討ちをして其の害毒を取除いたのであるから、其の遠征は神意であると同時に民意であつたのであらう。しかも彼は自ら謙徳を守りて敢て王位に即かす、その子の舜天に至つて始めて人民に推されて琉球王となつたのであつた。

とにかく前述の様に其の年代からするも矛盾するなく、その遺蹟は多く湮滅に歸せりと雖も、しかも舜天の偉業はこれを忍ぶに餘りあり、尙其の他傳説に歌謠に民心より牢として抜くべからざるものがある。加ふるに日琉即ち本支流兩民族性を融合せしむる上よりいふも、果たまた國民教育上よりいふもこの神の與へた楔子とも見做すべき爲朝の渡琉をなみする月は無いと思ふ。

大正四年十月十日南山城及び和解武に遊んだ其の夜濁つた變な音の警察で打つ時鐘が今十一時を報じた。蚊軍を避ける爲蚊帳の中で書いて居る。晝間から八十二三度で口々に暑々々と愚痴がもれて居たが、今はそよとの風もなく、遙かの町から開ゆる悲しさうな三味の音を耳に、じり／＼蒸されて、しんみり南國趣味を味のひ／＼筆をばこばせた。

他の職員全部かこれに同じて襦袢一つになり鍬鎌採つて模範を示さなければならぬ。これが實習改革の第一義である……と一寸先生の眼から免れて窓越に該校の農園を觀た時に一人の先生が數十人の生徒に除草をなさしめ居られたが殊の外深い印象を與へた、横井先生は私等の學校の實習までも觀られたのかしらと皆思つたらしく見へて可笑しかつた。或る校長が困つたなと曰つたのを聞いて同情してやつた。

農業實習の成果なきを訴ふるの言を聴くこと誠に久しである。而も其の據て來る原因の探究に勉めて其を發表したのを觀たことも甚だ罕れであつた。時に博士の講義に接して大に共鳴した所であつたのは洵に嬉しい事である。

次は農業經濟の一に曰く『生産と經濟』の講義に移ることにする。經濟學の講義は最も面白く開發啓培した事も多々あつた。先生何時も快辯熱舌を振つて『……やれ耕地整理の、作物栽培法の、種苗改良の、病蟲害驅除のど騒ぎ立て、無暗に生産のみを多くしやうと腐心して、一向經濟の方面に顧慮しない。農業經營の根本義は實に經濟にあるのである。經濟を餘所にした經營法は畢竟無意味なものとなる。例へば昨年の如き

文部省主催實業教科教員夏季講習會は本年八月二日平塚なる本縣立農學校内に於て開かれた。其第六日目の第二時に横井先生『今日は實習に就いて少し講義をいたします』と目的指示を明瞭にして數千言！實習の時に往々見るに、僅に受持の先生が唯一人で數人の生徒を役して何事かを炎天の下にやつて居る。他の職員は職員室で雜談を試みて、我關せず焉をさめて居る。時にさつさと歸つて少しも顧みない。生徒も實習當番でなければ歸つて知らぬ顔。こんな風で何んでよい結果が得られやう。實習直接の効果もなければ訓育もない、生徒は次第々々に實習への同情から遠く退いて行くばかり。一體教師は口を開けは職業には貴賤なしの、勞働は神聖也のと幾千遍も提唱するが扱て御自身は一度も其を試みた事がない。何は兎も角に諸君は農家に生れたが勞働が厭やて教師になつたのだからいかぬ。それで兒童の指導が十全に出來やうか小學校の農業實習の時には校長が第一番に跣足となり

米の産額前古比なし七百萬石の増收を見た、其の結果は供給過剩となつて價格の大暴落を來し、農家は大に困んで居る。農家は凶年に泣かずして却て豊穰に疲憊するの奇現象に陥つて居る、今年も此の分て行けは豊作であらう而して農家は破産する、此の破産や窮迫から免ぬかれる第一策は政府の米價調節も可らうが、又外國輸出も可からうが、其等には自然的制限があるそれよりも特志家があつて七百萬石の増收米を燒棄するか、品川灣へ打ち沈めて仕舞つた方が佳いのである徒らに生産額ばかりを増さんとする農業は眞の農業ではないのである……と。蓋し近來の大講演であつた、世の學者或は經世家といはるゝ人の往々一隻眼より外に持つて居ないことを考へる時に私等は何時と思はず洪嘆するのである。博士先生が天晴我國の今時の窮狀を救助せんとの大經綸なる今日の講演中にも稍々其んな所がありはせぬかと思はれる。

西先生の農藝化學も頗る斬新な點があつて面白い。而して實驗に最大價值があるやうに思はれた。實驗室のガラス戸を固く鎖して微風だも入るなからしめた蒸し暑い室内に二十人の生徒が襦袢一枚になつて、同じく上衣を脱して居らるゝ先生の指針の下に試

驗管、指示藥、土壤、肥料等を持つて實驗して居る様子は、餘程眞剣に見へて元氣横溢の觀がある、實驗が夫から夫へと進行して豫定の實驗が終へたのは、始めてからの四時間位の後で二回ともあつた。其の間生徒の二十人が勝手氣儘に同一事項を幾回ともなく先生に尋ね返したのに先生は少しの倦怠もなくいつも親切に一々教示せらるゝ態度には唯もう感服の外はなかつた。私は何よりこれが特別の快感を惹いた事で此の講習中の最大な印象である、實驗室から自由になつて歸る時同行の同人等と共に語り合つた事も是であつた。暑中休暇で他の多くの種類の學生も教師も皆自適の生活にあこがれ居るに、此學校の生徒は朝は早くから田園に出て麥稈帽子に、メツの襦袢、股引で一心に教師の指導の下に働いて具さに粒々皆辛苦の實感を味つて居る。痛快止む能はずであつた。

◎一日の採集 (京大講習中)

滋賀縣立膳所中學校教諭 高橋新太郎

八月八日、日曜

採集蟻を肩にブランクトン網ネットを持つた我等一行は午

前九時三井寺下の棧橋から石山行の汽船に乗つた。湖はハウレル氏ヌケイルの五乃至五號といふ鮮やかな瑠璃の香を湛へて活動と向上とを象徴してゐる。甲板上に漲る風は秋冷のやうな爽やかな快よい感觸を與へた。遠近に點々として見ゆる和船、黒煙を吐いて駛つてゐる汽船、湖南周圍の山々の姿態、市街村落耕地などの布置、之等の光景が恰で畫である。我等は湖南の風光を賞讃しつゝ石鹿城址に上陸した。

荒廢した池のブランクトンミクロストマを採集して *Microstoma lineare* を得た。此種は渦蟲類に屬し海産のミリアニダに近似の動物で。出芽生殖をなす特性がある。体は圓柱狀、長さ僅かに一ミメ内外、黄褐色を呈し、僅かに肉眼觀察がでさるのである。新種では無いが日本では珍らしい。川村先生(京大講師)が初めて此池で發見されたのである。城址の北東の濱で蛭の一種 *Scaphobdella branchardi* オカ を採つた。波打際の石をくりかへして見ると吸ひ付いて潜伏してゐる。

此濱からかぬて用意してあつた和船に乗つた。ギイギイといふ櫓の音を聽きながら沖へ出た。私が『少し動搖が激しいではないか』と言つたら川村先生に『高橋君このくらゐの動搖は却て心地がよいではないか』

と言はれて大笑ひ。一行は瀬田鐵橋の北東畔の淺瀬に降りて膝關節の僅かに上部迄透明な水に浸漬させ水底の花崗岩の砂を踏みながら淡水海綿の一種 *Euspongia lacustris* 車軸藻類 の *Nitella* 緑藻類 の *Chaetophora* 藍藻類 の *Rivularia* 等を探つた。イウスボンギラ、ラクストリスは高さ三寸許の沈水植物の体面に扁平状或は塊狀の群体をなしてついでゐる。しかも鮮綠色を呈してゐるから私は初め探すに苦しんだがすこし練習の後眼が鋭どくなつて五株許探つた。その綠色を呈する所には緑藻類の *Zoochlorella vulgaris* と共生してゐるからです。赤塚先生(京大講師)の研究で解つた。鐵橋の橋脚には恰で厚い毛布を卷いたやうに一種の淡水海綿が廣大な群体を形成してゐる。之れを探つて見たら色は淡黄色で固有の臭氣が劇しく鼻を衝いた。一行は博物學者の集合であるかこの臭氣をよるこぶものは一人もなかつた。この海綿はこの冬形成する *Gemmul* とつて調べなければ種名がわからないと川村先生が言はれた。

花崗岩の皮膚ヒダを現はした田上山と、緑樹の鬱然こもりとした石灰質の石山とか左と右とにそゝり立つてゐる。其間を浸蝕して緩るく流れてゐる瀬田川のあちらこちら

の岸には紅提燈を下げた屋形船がづないであつた。これに燈火を點じて漕ぎ出して納涼をする夜の光景は他では恐らく見ることができないでせう。石山寺下の棧橋には買切の汽船が先着して待つてゐる。一行は汽船に移乗して甲板上で晝餐をした、めた。各旅館の階上には岐阜提燈が數々吊られて、白地の浴衣を着た男や女の姿が見えた。

一行は零時半に石山をたつて、二時半山田に上陸した。其間甲板上で湖上の清風にあたり乍ら茶話會を催した。私と京都師範の茨木教諭とが幹事で菓子、團子果物など石山から買つて來たのです。山田は矢橋の近くにある沖積層地です。こゝには周圍十丁許の沼があつてそれにデンジサウ、トチカバミ、ヒシ、ヒツジグサ等が水面を蔽ふてゐた。一行はこゝのブランリトンネットを目的に來たのです。各自に網を引いて採集した。浮水植物の群落は沼に雅趣を添へてゐることはいふまでもないが網を引くには頗る邪魔になつた。

一行が實驗室に歸つたのは四時です。各自に採集物の整理をした。私は先づ石鹿城址で採つたミクロストオマ、リネアールオカを昇汞水で殺し次に沃度液で洗ひ次にカーミンで染めアシドアルコホルで洗つて次に七〇

%九〇%一〇%等のアルコホル液につけて最後にテ
 レビンで洗つてプレパラートを作つた。初め殺す時
 は五個あつたが最後には僅に一個となつた私は自分
 からは自分の注意が足らなく且つ手際の拙いのにあ
 されたニテラを檢鏡したら恰度生殖器が成熟してゐ
 たからプレ
 レパラートを二枚作つた。スカプトブデラ、ブラ
 ンカ
 ルジイはピクリン酸で殺して標品とした。淡水海綿
 フオルマリ
 ンに浸けた。山田のブランドン時計皿
 にとつて檢鏡したら驚嘆すべき無數なる動物を觀
 た。私はこの中からユウドリナ、シクロッパス、オシ
 ラリア、アルセラア、リブラリア等を分離してプレ
 パラ
 ートに作つた。太陽は既う長等の山にはいつて、顯
 微鏡の實驗がでさなくなつてしまつたのが残念であ
 った。

●普通植物檢索表

樹木ノ部(第二回)
松野重太郎

ぐみ科

喬木或ハ灌木。全體ニ鱗毛又ハ軟毛ヲ密生ス。葉ハ互
 生。花ハ兩性或ハ單性。雄蕊ハ萼片ト同數。花瓣ナシ

- 果實ハ堅果ニシテ宿存セル花托ニ依リテ包被セラレ核
 果樣ヲナス。種子ニ胚乳ナシ。
- ぐみ屬ノ種名檢索表
- 一、常綠樹ナリ……………二
- 落葉樹ナリ……………四
- 二、枝ニ針ナシ。葉ハ廣橢圓形或ハ卵形ニシテ裏面ニ
 銀白色ノ鱗毛ヲ有ス。果實ハ長橢圓形長サ五六分。
 四月紅熟ス……………まるばぐみ
- 枝ハ褐色。花ハ腋生、一個或ハ二三個。葉ハ裏面ニ
 褐色ノ鱗毛ヲ有ス……………三
- 三、小枝ハ蔓ヲナサズ、針ヲ有ス。葉ハ硬厚、長橢圓
 形鈍頭ニシテ縁邊波狀ヲ呈ス。花期九月。果實ハ長
 橢圓形長サ五分許、翌年六月紅熟ス。なはしろぐみ
 小枝ハ蔓トナリ、針ヲ有セズ。葉ハ卵狀橢圓形ニシ
 テ銳頭。花期二月。果實ハ瘦長橢圓形長サ五分許、
 赤褐色ヲ呈ス……………つるぐみ
- 四、花ハ腋生、數個、花梗二分、繖形ヲナス。果實ハ
 殆ド球形、十月紅熟ス……………あきぐみ
- 花ハ腋生、一個或ハ二三個……………五
- 五、葉ニ鱗毛ヲ有スルモ軟毛ナシ……………六
- 葉ニ鱗毛及ビ軟毛多シ……………七

六、果實ハ長橢圓形又ハ卵形長サ約五分。果柄七八分
 下垂ス。花期四月。六月紅熟ス……………なつぐみ

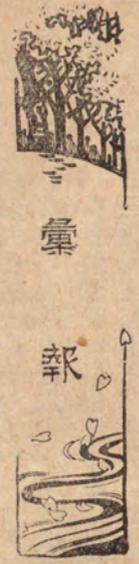
果實ハ前者ヨリ小形、果柄約五分下垂セズ。花期五
 月。秋期熟ス……………まめぐみ

七、葉ハ卵形或ハ橢圓形、裏面茶褐色、果實ハ卵圓形
 ナリ……………なつあさどり

葉ハ橢圓狀披針形、裏面ハ銀白色。果實ハ卵形ナリ
 ……はこねぐみ

○誤植訂正

第二百二十六號五十二頁上段十行目、花瓣ナシノ次ニむべ屬ヲ、同十一行
 目花瓣ナシノ次ニあげび屬ヲ加フ。
 同十四行目ト十五行目トノ間ニあげび屬ヲ脱ス。
 同十六行目、個ノ次ハ直ニ橢圓形ニ移ル。
 同十九行目、個ノ次ハ直ニ卵形ニ移ル。



●議會召集

第三十七帝國議會召集の件は十月四日付を以て本年
 十一月二十九日を以て帝國議會を東京に召集する旨の

詔書を發せらる。而して 聖上陛下には十二月一日貴
 族院に行幸親しく開院式を行はせらるゝことに御治定
 相成たり。

●教育大會開會期日

- 京都府市教育會の主催にかゝる全國教育大會は開期
 愈切迫したるが其開會期日及日割は左の通決定した
 り。
- 十一月二十六日午前九時 總會開會 正午散會
 - 同 二十七日 休會
 - 同 二十八日午前九時 各部會開會 正午散會
 - 同 二十九日 同上 午後宴會
 - 同 三十日午前九時 總會開會 正午閉會

●勅題仰出さる

大正五年歌御會始御題は十月十四日の官報を以て左
 の通仰出さる 但詠進は一人一首とし本年十二月三十
 日までにて宮内省御歌所に差出すべしとなり。

勅題 寄國祝

◎御眞影拜戴式

客月二十九日師範學校を始め縣下中小學校等四十三校に對し御眞影御下賜相成るに付同日午前十時より縣廳内正廳に於て其の拜戴式を舉行せられたり拜受の學校は縣立學校九、其他の中等學校八、小學校は横濱市九、横須賀市一、久良岐郡五、橘樹郡十五、都筑郡六三浦郡九、鎌倉郡三、高座郡十九、中郡二十五、足柄上郡十、足柄下郡九、愛甲郡六、津久井郡九、にして同十一時四十分滞なく其式の終了を告げたり。

◎中學校長開議

全國中學校長會議は來る十二月一日より一週間東京高等師範學校講堂に於て開會の事に決定し、同會に提出さるべき諮問事項並に調査事項は左の如し。

諮問事項

- (一) 現下の時局に鑑み今後中學校教育上特に留意すべき點如何
- (二) 中學校生徒に對し立憲國民として必要なる思想性格を涵養するに最も適切なる方法如何
- (三) 中學校生徒將來の目的に應じ上級の學科程度等に斟酌を加ふる途を開く可否若し可なりとせば其實施方法如何

調査事項

- (一) 教授並に調育上特種の施設と認むべきものあらば其狀況
- (二) 實業科及法制經濟科唱歌科擊劍柔道教授に關する調査
- (三) 授業日數等に關する調査
- (四) 優等者及及第者落第者等に關する調査
- (五) 各學年に於て使用する教科書に關する調査

◎夏期講習會

本年縣下各地に於て開催したる夏期講習會は左表の如し。

設別	開設者	會場	期間	講師	學科目		講習員數		經費	備考
					裁縫	烹煮	出席者數	修了者數		
公私	神奈川縣	女子師範學校	自八月二日至十一月一日	東京女子高等師範學校助教 影山みづ	音樂	物理	一二七	一二六	一五、八五	講習料 七〇錢 一科 五〇錢
同	同	同	同	女子師範學校教諭 足立ヤス	音樂	物理	一二七	一二六	一五、八五	同
同	同	同	同	師範學校教諭 小林伊三郎	幾何	代數	一二八	一二三	一三、五〇	同
同	同	同	同	地學協會幹事 小林房太郎	地理	物理	四七	四七	四四、九五	講習料ナシ 修了證ヲ授與セズ
同	同	同	同	法學士 羽田格三郎	法律	家事	八五	七九	三四、六〇	講習料ナシ
同	同	同	同	東京女子高等師範學校教授 郡長市村慶三	物理	化學	九七	八六	三五、〇〇	講習料ナシ
同	同	同	同	師範學校教諭 河邊良平	物理	化學	九七	八六	三五、〇〇	講習料ナシ
同	同	同	同	縣屬野川村 信孝	經濟	法律	一一八	一〇七	七〇、〇〇	講習料ナシ
同	同	同	同	縣視學 關野 靖	修身	圖畫	八一	六九	二三、六一	經費ト各會場ノ 合計ヲ計上ス
同	同	同	同	師範學校教諭 伊藤 之助	圖畫	家事	八一	六九	二三、六一	三會場共講習料 ナシ
同	同	同	同	同	同	同	八六	七三	同	同
同	同	同	同	同	同	同	九七	八六	同	同
同	同	同	同	同	同	同	一〇四	九〇	同	同
同	同	同	同	同	同	同	五一	四八	同	同

大正四年夏期講習會一覽表

設別	開設者	會場	期間	講師	學科目		講習員數		經費	備考
					裁縫	烹煮	出席者數	修了者數		
公私	神奈川縣	女子師範學校	自八月二日至十一月一日	東京女子高等師範學校助教 影山みづ	音樂	物理	一二七	一二六	一五、八五	講習料 七〇錢 一科 五〇錢
同	同	同	同	女子師範學校教諭 足立ヤス	音樂	物理	一二七	一二六	一五、八五	同
同	同	同	同	師範學校教諭 小林伊三郎	幾何	代數	一二八	一二三	一三、五〇	同
同	同	同	同	地學協會幹事 小林房太郎	地理	物理	四七	四七	四四、九五	講習料ナシ 修了證ヲ授與セズ
同	同	同	同	法學士 羽田格三郎	法律	家事	八五	七九	三四、六〇	講習料ナシ
同	同	同	同	東京女子高等師範學校教授 郡長市村慶三	物理	化學	九七	八六	三五、〇〇	講習料ナシ
同	同	同	同	師範學校教諭 河邊良平	物理	化學	九七	八六	三五、〇〇	講習料ナシ
同	同	同	同	縣屬野川村 信孝	經濟	法律	一一八	一〇七	七〇、〇〇	講習料ナシ
同	同	同	同	縣視學 關野 靖	修身	圖畫	八一	六九	二三、六一	經費ト各會場ノ 合計ヲ計上ス
同	同	同	同	師範學校教諭 伊藤 之助	圖畫	家事	八一	六九	二三、六一	三會場共講習料 ナシ
同	同	同	同	同	同	同	八六	七三	同	同
同	同	同	同	同	同	同	九七	八六	同	同
同	同	同	同	同	同	同	一〇四	九〇	同	同
同	同	同	同	同	同	同	五一	四八	同	同

同	足柄下郡 第二小田原 教育會 小學 校	自八月 二日 至 六日	師範學校教諭 同 澁谷近 小 藤 調 ミ 蔵	地 理 裁 縫	一五六 一四九	七五、六〇	講習料ナシ
同	愛甲郡 荻野小學校 教育會	自八月 八日 至 十二日	縣屬 野村信孝	法 (憲法) 制	七九	七〇	講習料ナシ
同	津久井郡 協心小學校 教育會	自八月 一日 至 三日	文科大學教授 文學博士 熊次 吉田 熊	教 育	九五	九二	講習料ナシ

右ノ外左記講習會ノ開設アリタリ

一、鎌倉郡ニ於テハ九月二日ヨリ八日マテ地方改良會講習會アリタリ

二、中郡ニ於テハ神職會支部ノ講習會ヲ八月二十日ヨリ七日間開設セリ

三、足柄下郡ニ於テハ足柄村ニ於テ八月十七日ヨリ七日間吉濱村ニ於テ八月一日ヨリ七日間教員相互研究的講習會ヲ開設セリ

●神奈川縣農業教育研究會 第四回總會狀況

神奈川縣農業教育研究會は十月九日午前九時より平塚町本縣立農業學校に於て第四回總會を開き會務の報告をなし續ぎて左記諸問題につき熱心なる研究をなしたり。

研究問題

一、農業科教授法の實地研究を必要とせずや若し必要

とせば有効にして實行し易き研究方法如何。

二、小學校實習地に栽培すべき作物の種類及び品種の適當なるもの如何。

三、夜間農業補習學校に於て教授すべき最も適切なる學科並に教材の一般的標準如何。

四、小學校女子の農業實習として課すべき適當なる作業及實施上注意すべき事項如何。

五、肥料に關する知識を確實豊富ならしむる爲に課すべき實驗實習並に指示すべき標本の種類如何。

研究大要

第一問題は教授法實地の研究を必要とし、實行し易き研究方法としては種々の異説ありしも其の主なるものは (イ) 縣立農業學校に隨時會員の會合をなし同校の器具實習地等を利用して研究的の實地教授をなすを可とするもの (ロ) 縣下各地方の農業科教授の成績可良なる小學校に於て順番に同研究會を開催するを可とするもの (ハ) 多數會員の出席上並に最も適當なる研究の機會方法を得る便利上之れが研究は各郡にある本會支部に一任するを可とするもの (ニ) 之れが研究は各適宜なる方法を以て各郡本會支部に於て研究的實地教授をなし尙本會に於ても總會其の場合に隨時教授法の研究をなすを可とするもの等なりしが遂に最後の (ニ) 説に決定せり。

第二問題は作物の種類は地方農業の狀態並に實習地土質の如何等を考へ各校適宜に撰定すべきものなれば茲に一般的に研究する必要なきものと認むるとの説あり一方には小學校の實習地は特別の場合の外種々の作物の栽培可能なる土地を採用すべきものにて實習地に栽培する作物を中心として教科書に記載せる整地、撰種下種、施肥、管理、調製等の作業を實習せしめ尙ほ是

等に對する趣味を養ふには先づ多數作物の中より最も適當なる種類を撰ぶ必要ありとの説あり。遂に問題中の『及び品種』の四字のみを削除して之れが調査をなすことに決し三名の委員に之れを依託することゝなせり尙ほ會員の發議に依り委員に撰定したる作物に附隨して其の作付順序組合せ等の調査をも依託することゝせり而して右委員は其の後會長より左記の三氏に囑託せり。

調査委員 (イロハ順)

- 尋常高等神田小學校 小泉 健 作氏
- 尋常高等相川小學校 杉 崎 娟 造氏
- 尋常高等金目小學校 志 村 寅 吉氏

第二問題は農業補習學校の學科は既に文部省令實業補習學校規程に於て確定せられ居り研究の餘地なきが故に之を訂正して、農業補習學校の農業科教材の一般的標準如何とせんとの議ありしも提出者不在の爲め宿題となせり。

『附 文部省令實業補習學校規程には學科は確定せられ居らずして研究の餘地あるものゝ如し(幹事)』
第四問題に關しては種々の意見あり。且つ一會員の參考として示したる左記のものありしも時間切迫の爲め

具體的の決定を見るに至らず第五問題と共に宿題となしたり。

小學校女子に課すべき實習

- 一、主要作物の撰種調製病虫害の驅除豫防
 - 二、蔬菜の栽培
 - 三、花卉栽培
 - 四、果樹栽培袋掛剪定整枝
 - 五、養蚕 屠繭整理
 - 六、養鶏
 - 七、農産加工 漬物、味噌、澱粉、切干大根、干瓢
 - 八、農家收支計算
- 實習に關し特に注意すべき事項
- 一、成るべく輕便なる服装にて従事せしむこと
 - 二、農業趣味の養成を主とすること
 - 三、教師自ら範を示して眞面目に作業せしむること
 - 四、男女協同して作業をなさしむる時は殊に嚴肅の態度を保たしむべし
 - 五、地方農家の女子の風習を熟知して指導の参考となし殊に其の良風の助長弊風の矯正に注意を要す

◎博物講演會狀況

神奈川縣植物化石調査會は去る十月九日午後一時より本縣立農業學校に於て第三回博物講演會を開き有益に

賜の習性に就きて趣味に富む講演ありたり。
△農業上の技術と植物生理

神奈川縣立農業學校教諭 吉村昌二氏
果樹の接木の方法及び之れが活着の理由を樹幹の構造並に植物生理上より叮嚀に説明し且つ接木に於て砧木の性質が接穂に及ぼす影響、園藝上果樹の繁殖に種子を用ふるよりも接木法に依ることの有利な所以を適切なる實例を擧げて詳説し、更に果樹剪定の目的方法並に此の作業の生産に及ぼす効果をも夫れ々々植物生理上より解釋して極めて有益なる講演なりき。

△御大典記念樹並に明治神宮献木に就て

第一横濱中學校教諭 松野重太郎氏
御大典記念樹を撰定する標準として 一、樹齡の長さもの 二、樹幹の大きくなるもの 三、思想上害なきもの 四、日本産なること 五、常綠樹なること、の五点を擧げて意見を述べ且つ参考として本邦各地並に本縣下の老樹名木の種類大さ樹齡所在地等の調査の一覽表を示して聴衆の注意を引き、更に明治神宮御神苑に全國より献木を許るさへ御趣意並に献木の種類献木出願の手續等に就きて詳細なる講演

して趣味多き講演をなしたり同日の講師及び講演の概要左の如し。

△開會の辭 調査委員長第一横濱中學校長木村繁四郎氏

植物分布の調査は實に質素にして敢て人目を引くに足らざるものなれども、之將來大日本植物分布調査の大成に重要な資料を供給するものにして學術上には極めて大切なる一事業なり、唯吾々調査委員は各自職務の餘暇を以て其調査に従ふものなれば進行の遅々たるを免れず、されども既に本縣下名木の調査を終り常綠樹の豫察報告をなし箱根植物なる一小冊子を編纂し且つ數回縣下各高山及び平地部の調査採集を試み現今も其の完成を期して努力しつつあり尙本會は隨時諸地方に講演會を開きて博物に關する知識趣味の普及を計り今回其の第三回講演會を本校に開催せりと會の紹介を兼ねて開會の挨拶ありたり。

秋色の美 小田原中學校教諭 伊藤和貴氏

秋天にたなびき亘る銀河より説き起して太陽星等の天体に及ぼし更に話頭を轉じて樹木の紅葉並に葉緑の紅變する所以、林間に發生する茸の形態食用菌有毒菌の外観上の區別を説明し、尙秋日平野を賑はす

ありたり

尙松野氏の紹介にて程ヶ谷特志家岡野欣之助氏より御大典記念として寄贈せられたる樟公孫樹苗三百本を來會者に分配したり。

△鼠に就て 横須賀中學校教諭 坪田元福氏

鼠の種類及變種を説明し其中最も普通なる。くまねずみ。どぶねずみに就きて其原産地及び彼等の全世界に傳播したる経路年代の研究を紹介し、尙鼠の繁殖、習性、人生に對する經濟上衛生上の利害等を面白き實例を引證して詳説し更に鼠の驅除法に關して趣味ある講演をなせり。

◎帝國教育會の冬期講習會

帝國教育會にては來る十二月二十五日より六日間左記の通冬期講習會を開催せらる、由希望の者は東京市田區一ツ橋通町二十一番地同會へ申込まるべし

一、學科及講師

- 教育學 文部省圖書官東京高等師範學校教諭 森岡 常藏君
- 算術科 東京女子高等師範學校教諭 森 岩太郎君
- 同 川上 瀧男君

教育談話

一、列國ノ國民性ト教育ノ特長

東京帝國大學助教授文學博士 吉田 熊次君

二、本邦ノ國民性及教育上改善ヲ要スル諸點

同 教授文學博士 井上哲次郎君

一、戰後ノ教育

文學博士 澤柳政太郎君

一、軍事ニ關スル講話

陸軍中將 田中 義一君

一、説話法

加藤 唯堂君

二、講習料

(左ノ割合ヲ以テ申込書ト共ニ送付セラルベシ 但振替

一、定員

各學科何レモ四百人以上トス滿員ノ節ハ入會御斷可申

四、講習期日及時間

教育學(毎日午後一時開講)算術(毎日午前九時開講)

教育講演(毎日午後六時開講)

五、會場

帝國教育會講堂

○京都便り

平岩 鐵海

○陵墓掃除と講演 京都府下宇治郡にては郡内に天智天皇山科陵を初め醍醐朱雀二帝陵及び寛道稚郎子藤原賢子同胤子等の御墓所散在せるを以て前田郡長阪根郡視學等の唱導に基き郡内青年會員在郷軍人會員等にして絶えず御墓所及び近地掃除の任に當らしめ居りたりしが今回小學兒童をして其の學校附近の御陵墓を毎月日時を定め参拜せしむると同時に臨時講演を行い以て皇室の尊嚴皇室と人民との關係等を詳かに説き忠愛の精神を養ひ且つ國民道德の根本を培い郷民をして御陵墓所在の光榮なるを思はしめ延いて愛郷の理想を堅固にし風教の厚きを濟なさせしめん目的を以て實行しつゝあり郡長郡視學等も其の一行中に加はり充分に其の講話振及び兒童の印象等に就き視察を行ひつゝありと云ふ。

○奉祝大運動會 大典奉祝の爲め京都市各小學校聯合の大運動會を開催する事となり十一月中旬を期し深草第十六師團練兵場を借り受け市内尋常小學校第六學年全生全部及び高等小學校生徒全部を参加せしめて舉行する者にして當日午前十時に始め午後二時に終了する豫定なり第一號砲を以て準備を整え第二號砲を以て君が代の唱歌二回を合唱したる後演技を開始するものなり其の演技の種類は選手徒步競争一齊體操及教練遊技等にして最後に國旗行進(奉祝唱歌合唱參加兒童全部)参加者一同萬歳を三唱して退散する者なり序に役員は會長井上市長大森助役庶務部長川嶋學務課長其の他各係は市内校長等多人数なり。

○府の對青年會方針 全國各府縣に於ける青年會に對し内務文部兩大臣よりの訓令に關し京都府の方針なる者を聞くに從來と別に變り

教育科

教授法

(三時間)

- (一) 理科教授ノ要旨ヲ記載セヨ。
- (二) 國語科中讀方教授上ノ注意ヲ記セ。

教育學

- (一) 教授ノ目的ヲ記シ例ヲ歴史ニ探リテ解説セヨ。
- (二) 教授ノ段階ヲ説明セヨ。

教育史

- (一) 訓練上模範ノ價值ヲ論セヨ。

管理法

- (一) シュライエルフマツヘル氏ノ教育說ヲ論セヨ。
- (二) 尋常小學校長ノ取扱フヘキ就學事務ヲ記載セヨ。
- (三) 校舍ノ建築上注意スベキ點ヲ舉ゲヨ。

心理學

- (一) 記憶ノ型式ヲ記載シテ教授上ノ注意ニ及ベ。
- (二) 執意ト習慣トノ關係ヲ論セヨ。

論理學

- (一) 左ノ論式ノ眞偽ヲ批判セヨ、但偽ナル時ハ如何ナル誤謬ヲ犯セルカヲ説明セヨ。

國語科

- (一) 「或日本人ハ智者ナリ、或日本人ハ善人ナリ、故ニ或善人ハ智者ナリ。」

○檢定試験問題

去る九月末より十月初めに亘り鎌倉師範學校内に於て施行したる小學校教員檢定試験問題は左の如し
小學校本科正教員

修身科

(二時間)

- (1) 「進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ」ヲ行義セヨ。
- (2) 品性ト行爲トノ關係ヲ説明セヨ。
- (3) 職業ニ對スル心得ヲ述ベヨ。
- (4) 行李啓等ノ節ニ於ケル敬禮方ヲ問フ。

(一) 左ノ文章及ビ俳句ヲ解釋セヨ

1. あまの住家の、いとほかなげに見ゆるを、なかなかにかかしきのから、さて住みなば、なに心地かせまし。

2. 花はさかりに、月は隈なきをのみ見るものは。雨にむかひて月を戀ひ、垂れ籠めて春のゆくへ知らぬも、なほあはれに、なきけ深し。

3. 行水のすて所なし蟲の聲。

(二) 左ノ諸語ニ讀假名及ビ説明ヲ加ヘヨ

1. 袴衣、2. 大嘗祭、3. 因業、4. 草摺、5. 端居
6. 術數、7. 聯想、8. 凧、9. 長閑、10. 落莫

(三) 左ノ平假名ヲ漢字ニ改メヨ

1. しとみ、2. うてな、3. くわんげい、4. ふぜい、5. たいまん
轉 左ニツキ知レル所ヲ記セ

1. 山上憶良、2. 大鏡、4. 連歌、4. 西行、5. 土佐日記

(四) 左ノ文ノ成分ニ解剖セヨ

われらは明治大正の聖代に生れあひたるを無上の光榮となす。

(五) 廣義ニ於ケル言語トハ何ゾヤ。

作文 (一時間)

左ノ題ニテ文ヲ作レ (普通文語體)

艱難汝ヲ玉ニス

習字 (一時間)

(一) 左ノ文字ヲ楷、行、草、三體ニ認ムベシ

白扇 倒懸 東海 天

(二) 左ノ歌ヲ平假名ノミニテ認ムベシ。

君の爲民のためぞと思はずば

雪も聲も何かあつめん

漢文 (二時間)

(一) 左ニ句讀、返點、送り假名ヲ附スベシ

世有伯樂然後有千里馬千里常有而伯樂不常有故雖有名馬祇辱於奴隸人之手駢死於槽枥之間不以千里稱也

(二) 左ヲ口語ニテ解釋セヨ

上謂公卿曰、昔禹鑿山治水、而民無謗讟者。與人同利故也、秦始皇營宮室、而人怨叛者、病人以利已故也。夫隆廢珍奇、固人之所欲。若縱之不已、則危亡立至。朕欲營一般、材用已具。鑿秦而止。王公已下、宜體朕此意。由是二十年間、風俗素朴、衣無錦繡、公私富給。

(三) 左ノ二句ノ意義上ノ相違ヲ説明セヨ

彼獨不食肉、彼不獨食肉。

(女子ハ三ニ答フルヲ要セズ)

數學科

算術 (男) 二時間

(1) 甲槽ニハ水九斗四升乙槽ニハ水壹斗八升ヲ入レアリ若シ甲ヨリ毎時

間ニ二升宛乙ニ流レ込ム管ヲ設ケタリトスレバ幾時間ノ後甲槽ノ水ガ乙槽ノ水ノ三倍トナルカ。

(2) 水槽アリ甲乙兩管ヲ同時ニ開ケバ三時間乙丙兩管ヲ同時ニ開ケバ五時間甲丙兩管ヲ同時ニ開ケバ六時間ニテ此ノ水槽ヲ滿シ得ベシトイフ

今甲乙丙三管ヲ同時ニ開ケバ幾時間ニテ滿タシ得ルカ。

(3) 一晝夜ニ十二分進ム時計即チ或ル日ノ正午ニ正シキ時ニ合セ置ク時ハ次ノ日ノ正午ニ午後〇時十二分ヲ示ス時計アリ正シキ時計ノ四分時

間ハ此ノ時計ノ何分何秒ニ又此ノ時計ノ四分時間ハ正シキ時計ノ何分何秒ニ當ルカ。

(4) 時計商アリ原價百圓ノ金時計ニ原價ノ貳割増ノ定價ヲ附ケ置キ之ヲ定價ノ貳割引ニテ賣リタリ損益何程ナルカ。

珠算

20. 024 + 5. 006 + 0. 32 x 1002

代數 (男) 二時間

左ノ聯立方程式ヲ解ケ

$$\frac{8}{x} - \frac{4}{y} = 5 \dots (1)$$

$$\frac{2}{y} + \frac{3}{z} = 1 \dots (2)$$

$$\frac{3}{z} + \frac{1}{x} = 1 \dots (3)$$

次式ヲ成ルベク簡單ナル方法ニテ計算セヨ

$$x^4 - (y-2)x^4$$

$$-3x^2 + 4xy - y^2$$

(3) 或人鐵道株若干ヲ金貳千五百圓ニテ買ヒ貳拾五株ヲ除キテ他チ一株ニ付五圓ノ利ヲ得テ賣リシニ金貳千貳百五拾圓ヲ得タリトイフ幾株ヲ買ヒシカ。

(4) 一組ノ水夫アリ一ノ河流ヲ湖ルニ九時間ヲ要セリ又靜水ノ時ニ同距離ヲ漕クニ要スル時間ハ同シ河流ヲ水流ニ隨ヒテ漕ガズニ下ルニ要スル時間ヨリモ十二時間丈少シトイフ此ノ一組ノ水夫ガ此ノ河流ノ同距離ヲ漕下ルニ要スル時間幾許ナルカ。

代數 (女) 二時間

二數ノ差ハ十七ニシテ其ノ和ハ其ノ差ノ五倍ヨリモ十ダケ大ナリト

幾何 (男) 二時間

二ツノ三角形ニ於テ二邊夫々相等シク其ノ夾ム角相等シカラザレバ第三邊ハ相等シカラズ、角ノ大ナル方ノ第三邊ガ他ヨリ大ナリ之ヲ證明セヨ。

(二) 三角形ノ三ツノ中線ハ同一ノ点ヲ過リ此点ト各頂点トノ距離ハ其ノ中線ノ三分ノ二ナリ之ヲ證明セヨ。

(三) 三角形 ABC ノ邊 AB, BC, CA, L=夾々 X, Y, Z 点チ

$$\frac{XA}{XB} = \frac{YC}{YZ} = \frac{1}{2}$$

ナル線ニ取ルトキハ二ツノ三角形 ABC, XYZ ノ比如何

(四) 一ツノ平面ハノ斜線ガ其ノ平面上ニ於ケル正射影ト作ス處ノ銳角ハ此斜線ガ同シ平面上ニアリテ其ノ足ヲ過ル他ノ直線トナス處ノ銳角ヨリモ小ナリ

之ヲ證明セヨ

幾何 (女) 二時間

等圓又ハ同圓ニ於テ大絛ハ小絛ヨリモ中心ニ近キコトヲ證スベシ

直角三角形ノ直角ノ頂点ヨリ斜邊ニ引ケル垂線ガ直角ヲ分ツ二ツノ

神奈川縣教育會雜誌第二百二十七號

- 角ハ夫々直角三角形ノ他ノ二角ニ等シキコトヲ證スベシ
- (三) 圓ニ内接スル四邊形ノ對角線ガ互ニ垂直ナラバ相對スル邊ノ包ム矩
形ノ和ハ四邊形ノ二倍ナリ。
- (四) 正梯形ノ二ツノ底邊ハ九間及十五間ニシテ他ノ邊ハ五間ナリ、面積
並ニ對角線ヲ求ム。

簿記 二時間

左ノ取引ヲ仕譯帳ニ記入シ合計セヨ
大正四年八月

- 一 日 現金五千圓ヲ元入シ米穀商ヲ始ム。
- 二 日 營業諸入費金拾參圓五拾錢ヲ現金ニテ支拂フ。
- 三 日 帝國商業銀行へ當座預金トシテ現金參千圓ヲ預入ル。
- 同日 松田商店ヨリ現金ニテ買入ル。
- 筑後米五十石 拾四圓五拾錢替
- 金七百貳拾五圓也
- 四 日 江口政三ヨリ金壹千圓借入ル 期限二十日間
- 利子日歩三錢 保證人 三樹五郎
- 六 日 辻本商店ヨリ次ノ通り買入ル
- 伊勢米 六十石、拾五圓五拾錢替 金九百參圓也
- 尾張米 一百石、拾四圓八拾五錢替 金千四百八拾五圓也
- 右ノ代金ノ内千五百圓ハ當店振出シ帝國商業銀行小切手ニテ支拂ヒ
殘額ハ掛トス
- 九 日 大西商店へ賣渡ス
- 筑後米 四十石、拾五圓貳拾五錢替 金六百拾圓也
- 伊勢米 六十石、拾五圓五拾五錢替 金九百五拾參圓也
- 右代金次ノ通り受取ル

卅一日 本月分諸入費次ノ通り現金ニテ支拂フ。

- 家 質 金拾五圓也
- 雇人給料 金貳拾八圓也
- 雜 費 金拾貳圓五拾錢也

歴史科 (二時間)

- (一) 西洋文化ノ我が國ニ傳來セシ沿革ノ大要ヲ述ベヨ。
- (二) 明治年代ノ始メト終リトニ於ケル我が國ノ領域ヲ比較説明スベシ。
- (三) 元代ニ於ケル東西交通ノ要領ヲ記セ。
- (四) 左記各項ニツキ詳説スベシ。

地理科 (二時間)

- 1. ハルリス 2. 林前徐 3. 文藝復興 4. ナボレオン三世
- (一) 本邦ノ綿糸紡績業につきて知る所を記セ。
- (二) 左ノ地につきて知る所を記セ。
- 雲山、濟南、リガ、シカゴ。
- (三) 地球公轉の結果として生ずる主なる現象を略述セヨ。
- (四) 海流の人文に及ぼす影響を述べて其の實例二三づゝを示セ。

博物科 (二時間)

- (一) 人體寄生蟲五種ヲ舉ゲ、各々ニツキ知ルトコロヲ記セ。
- (二) 根ノ構造ヲ記セ。
- (三) 左ノ礦物ノ用途ヲ問フ。
- イ、雲母 ロ、電氣石 ハ、燐 鑛 ニ、螢石
- 上肢及下肢ニ於ケル主ナル筋肉ノ名稱作用ヲ記セ。

物理科 (二時間)

- (一) 熱ノ傳播ニツキ知ルトコロヲ記セ。

本日附日附後十日拂 大西商店拂出シ當店宛約束手形第八號金壹千圓也

- 殘額ハ來月初旬マテ掛トス
- 十三日 山口商店ヨリ買入ル
- 尾張米、百石、拾四圓八拾錢替 金千四百八拾圓也
- 右代金ノ内金壹千圓ハ本日附來ル二十九日滿期日當店振出シ同店宛
約束手形第壹號ニテ支拂ヒ殘額金四百八拾圓ハ當店振り出シ帝國商
業銀行宛小切手ニテ支拂フ。
- 十七日 飯田商店へ賣渡ス
- 尾張米、百五十石、拾五圓五拾錢替 金貳千參百貳拾五圓也
- 右代金ハ本日附一ヶ月後拂フ同店振出シ當店宛約束手形第拾五號ニ
テ受取ル。
- 十九日 太西商店振出シ當店宛約束手形此金額壹千圓本日期日ニツ
キ現金ニテ受取ル。
- 廿三日 伊藤商店ノ手ヲ經テ左ノ通り買入レ代金並手數料ヲ現金ニ
テ支拂フ。
- 第三回 國庫債券額面千圓也
- 九拾壹圓替 金九百拾圓也
- 手數料 貳分 金拾八圓貳拾錢也
- 廿四日 江口政三ヨリノ借用金期日ニツキ元金壹千圓ニ利子六圓ヲ
添へ現金ニテ返済ス
- 廿八日 勝田商店へ現金ニテ賣渡ス
- 尾張米、三十石、拾五圓四拾五錢替 金四百六拾參圓五拾錢也
- 廿九日 山口商店宛約束手形本日滿期日ニツキ現金ニテ支拂フ。
- 三十日 辻本商店へ同店掛代金ノ内金五百圓ヲ現金ニテ支拂フ。

(一) 蓄電池ノ構造及作用ニツキ記セ。

(二) V秒種ノ速度ヲ以テ進行スルM、N、Pノ物體ガ靜止スルマデニ他物體
ニナシウル仕事ノ量ヲ計算セヨ。

(三) 光源Aノ實像ヲ凸レンズニヨリテB占ニ生セシメタルニA、B間
ノ距離Cナリ。

(四) レンズヲBノ方ニdダケ寄セタルニ亦Bニ實像ヲ生シタリ、レ
ンズノ焦点距離ヲ求ム。

(五) 最高寒暖計及最低寒暖計ニツキ述ベヨ。

(六) 凹面鏡ニ於ケル鏡心、光源、及像ノ位置ノ關係ヲ圖ニテ示セ。

(注意) 男子ハ(四)、(六)ニ答フルヲ要セズ。

女子ハ(三)、(四)ニ答フルヲ要セズ。

化學科 (二時間)

(一) 次ノ物質ニ水ヲ加フル時ニ起ル變化ヲ化學方程式ニテ示セ。

(1) アンモニヤ (2) 無水硫酸 (3) 生石灰 (4) ナトリウム

(二) 次ノ理由ヲ説明セヨ

(1) 炭酸ソーダノ水溶液ガアルカリ性反應ヲ呈スル理由

(2) 明礬ノ水溶液ガ酸性反應ヲ呈スル理由

(三) 鹽素及無水亞硫酸ノ漂白作用ヲ説明シ且其ノ作用ノ異ル点ヲ述ベヨ

(四) 次ノ物質ニツキ知ル所ヲ記セ

(1) ベンゼン、(2) サリシル酸、(3) ガルテン、(4) 重油、

(五) マツチノ製法ト摩擦ニヨリ發火スル理由ヲ説明セヨ

(六) 金屬ノ通有性ト實用上重要ナル性質トヲ述ベヨ

(注意) 男子ハ(四)、(六)間ニ答フルヲ要セズ

女子ハ(一)、(二)間ニ答フルヲ要セズ

稟 告

- 一 本誌は毎月一回十日發行とす
- 二 本誌の紙数は約六十頁とす
- 三 本誌の編輯質疑交換講讀及廣告に關する通信は左
記事務所宛て御送附ありたし

神奈川縣横濱市本町一丁目三番地
神奈川縣教育會事務所

受入番号	20135
受入年月日	1915.8.8
受入先	四五
價	箱

本誌は大に讀者諸君の投稿を歓迎す
質疑は成るべく郵便端書を用ひ且「質疑」と朱書せ
られたし
本誌原稿のべ切は毎月十五日とす

大正四年十一月九日印刷
大正四年十一月十日發行

發行所 神奈川縣横濱市本町一丁目三番地
神奈川縣鎌倉郡鎌倉町雪の下三番地

發行兼編輯人

高木計太郎

印刷人

小宮義比

印刷所

横濱市青木町二十三番地
木會書店印刷部

本誌定價	
壹部 八錢	郵税 五厘
廣告料	
金 一頁	半頁
金 參圓	金壹圓五拾錢

神奈川縣教育會雜誌每月一回十回發行
大正四年十一月十日發行第百二十七號
明治四十三年四月五日第三種郵便物認可